

令和元年度（2019年度）

令和元年度（2019年度）道民意識調査

（抜粋）

目次

調査の概要

1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査項目	1
(3) 調査の方法	1
(4) 調査実施機関	1
(5) 調査回収状況	1
2 調査回答者の特性	2
3 サンプルング	3
(1) 層化	3
(2) 標本分配	3
(3) 抽出	3
(4) 抽出結果	4
4 調査地点一覧	5
5 この報告書の見方	10

調査結果

1 北海道総合計画について	11
[1] 現在住んでいる市町村の住み心地	11
[2] 現在の生活に対する満足度	13
[3] 今後の生活の中で特に大切にしたいこと	15
[4] 2030年（11年後）頃の北海道がどのような社会であってほしいか	20
[5] 家庭や地域で今後特に大きくなると思われる問題	24
[6] 道内の経済・産業の活性化を図るために今後道が力を入れるべきこと	29
[7] 人口減少・少子高齢社会の到来に備え、住みよい地域社会を実現するために今後道が力を入れるべきこと	35
[8] 環境と調和した地域社会を構築するために今後道が力を入れるべきこと	39
[9] 地方自治体が持続的に住民サービスを提供できる主体となるために今後道が特に力を入れるべきこと	44
2 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて	48
[10] 現在住んでいる市町村に今後も住みたいか	48

調査の概要

調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関しての世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

(2) 調査項目

- 1) 北海道総合計画について
- 2) 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて
- 3) 環境問題に関する道民の関心・取り組み状況について
- 4) 北海道における再犯防止の取組について
- 5) 犯罪のない安全で安心な地域づくりについて
- 6) 食の安全・安心について

(3) 調査の方法

- | | |
|---------|--------------------------|
| 1) 調査地域 | 北海道全域 |
| 2) 調査対象 | 道内に居住する満18歳以上の個人 |
| 3) 標本数 | 1,500 サンプル |
| 4) 地点数 | 150 地点 |
| 5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| 6) 調査方法 | 郵送配付、郵送回収及びweb（スマホ）による回答 |
| 7) 調査期間 | 令和元年10～11月 |

(4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

(5) 調査回収状況

- | | |
|----------|------------|
| 標本数 | 1,500 |
| 有効回収数（率） | 732（48.8%） |

2 調査回答者の特性

区分	総数	比率
【総数】	732	100.0%
【圏域別】		
道央広域連携地域	460	62.8%
道南連携地域	60	8.2%
道北連携地域	70	9.6%
オホーツク連携地域	35	4.8%
十勝連携地域	57	7.8%
釧路・根室連携地域	45	6.1%
無回答	5	0.7%
【人口規模別】		
札幌市	266	36.3%
人口 10 万人以上の市	191	26.1%
人口 10 万人未満の市	129	17.6%
町村	126	17.2%
無回答	20	2.7%
【性別】		
男性	339	46.3%
女性	388	53.0%
無回答	5	0.7%
【年代別】		
18～29 歳	63	8.6%
30～39 歳	105	14.3%
40～49 歳	173	23.6%
50～59 歳	181	24.7%
60～69 歳	151	20.6%
70 歳以上	55	7.5%
無回答	4	0.5%

区分	総数	比率
【職種別】		
自営業（農林漁業）	20	2.7%
自営業（商工サービス業）	52	7.1%
自由業	26	3.6%
事務職系	200	27.3%
労務職系	152	20.8%
主婦	145	19.8%
学生	4	0.5%
無職	65	8.9%
その他	64	8.7%
無回答	4	0.5%
【市町村居住年数別】		
1 年未満	14	1.9%
1～5 年未満	38	5.2%
5～10 年未満	60	8.2%
10～20 年未満	94	12.8%
20 年以上	508	69.4%
無回答	18	2.5%

注) 個々の比率（百分率）は、少数第 2 位を四捨五入した。このため、各区分における比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

3 サンプリング

母集団	道内に居住する満18歳以上の個人
標本数	1,500 サンプル
地点数	150 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

【道 央】 札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、岩見沢市、美唄市、滝川市、砂川市、深川市、栗山町、長沼町、★小樽市、倶知安町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、登別市、伊達市、白老町、日高町、新ひだか町

【道 南】 ★函館市、北斗市、七飯町、森町、八雲町、せたな町

【道 北】 ★旭川市、名寄市、富良野市、上富良野町、東神楽町、鷹栖町、留萌市、稚内市、枝幸町

【オホーツク】 ★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、大空町

【十 勝】 ★帯広市、音更町、清水町、芽室町、幕別町、池田町

【釧路・根室】 ★釧路市、釧路町、厚岸町、根室市、中標津町

注) ★印は、札幌市を除く人口10万人以上の市

② 各圏域については、「札幌市」「人口10万人以上の市」「人口10万人未満の市」「町村部」と人口規模別に分類した。人口規模は、令和元年7月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満18歳以上の個人であるため、令和元年9月2日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより150の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占用率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する150地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (R1. 7. 31 現在)	選挙人名簿 登載者数 (R1. 9. 2 現在)	標本数	地点数
道央広域 連携地域	札幌市	1,944,283	1,677,881	550	55
	人口10万人以上	404,163	349,239	120	12
	人口10万人未満	668,846	579,095	190	19
	町村部	291,090	255,535	80	8
道南 連携地域	人口10万人以上	255,551	224,409	70	7
	人口10万人未満	45,898	38,738	10	1
	町村部	122,956	108,539	40	4
道北 連携地域	人口10万人以上	333,771	289,002	90	9
	人口10万人未満	121,466	105,784	40	4
	町村部	140,720	121,705	40	4
オホーツク 連携地域	人口10万人以上	116,587	101,004	30	3
	人口10万人未満	56,247	49,017	20	2
	町村部	103,678	89,982	30	3
十勝 連携地域	人口10万人以上	165,434	142,062	50	5
	町村部	170,264	144,919	50	5
釧路・根室 連携地域	人口10万人以上	167,859	146,275	50	5
	人口10万人未満	25,301	22,098	10	1
	町村部	107,157	91,565	30	3
合計		5,241,271	4,536,849	1,500	150

4 調査地点一覧

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	空知総合振興局	岩見沢市	栗沢町北本町
			桜木1条5丁目
		美唄市	東4条南6丁目
		滝川市	泉町1丁目
		砂川市	晴見3条北10丁目
		深川市	緑町
		栗山町	朝日3丁目
		長沼町	あかね2丁目
	石狩振興局	札幌市中央区	南10条西7丁目
			南14条西7丁目
			南19条西12丁目
			南25条西13丁目
			宮ヶ丘1丁目
			北13条西15丁目
			北5条西25丁目
			札幌市北区
		北15条西3丁目	
		北23条西7丁目	
		北30条西8丁目	
		篠路6条5丁目	
		新川6条15丁目	
		新琴似7条5丁目	
		屯田3条6丁目	
		札幌市東区	北11条東15丁目
			北21条東12丁目
			北25条東12丁目
			北39条東19丁目
			苗穂町4丁目
			東雁来14条2丁目
		札幌市白石区	東苗穂15条2丁目
川北4条3丁目			
川下4条2丁目			
菊水4条1丁目			
菊水上町3条3丁目			
中央2条6丁目			
本通2丁目北			

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	札幌市豊平区	旭町 3 丁目
			月寒西 5 条 6 丁目
			月寒東 3 条 18 丁目
			豊平 8 条 8 丁目
			平岸 2 条 8 丁目
			福住 3 条 3 丁目
		札幌市南区	石山 2 条 7 丁目
			川沿 11 条 2 丁目
			澄川 3 条 4 丁目
			藤野 5 条 5 丁目
		札幌市西区	琴似 4 条 3 丁目
			西野 10 条 8 丁目
			西町北 5 丁目
			八軒 3 条東 3 丁目
			発寒 14 条 2 丁目
			宮の沢 4 条 3 丁目
		札幌市厚別区	厚別北 3 条 3 丁目
			厚別中央 5 条 4 丁目
			厚別西 4 条 1 丁目
			厚別東 2 条 5 丁目
		札幌市手稲区	曙 3 条 1 丁目
			稲穂 4 条 4 丁目
			新発寒 4 条 3 丁目
			前田 3 条 7 丁目
		札幌市清田区	美しが丘 4 条 6 丁目
			北野 5 条 5 丁目
			清田 4 条 2 丁目
		江別市	あさひが丘
			東野幌町
			文京台東町
		千歳市	桂木 5 丁目
			花園 5 丁目
本町 5 丁目			
恵庭市	泉町		
	黄金北 3 丁目		

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	北広島市	稲穂町西3丁目
			西の里北
		石狩市	厚田区虹が原
			花川北5条1丁目
		当別町	未広
		後志総合振興局	小樽市
	朝里2丁目		
	入船2丁目		
	石山町		
	倶知安町		字高砂
	余市町	朝日町	
	胆振総合振興局	苫小牧市	木場町2丁目
			光洋町3丁目
			拓勇東町5丁目
			沼ノ端中央2丁目
			山手町2丁目
		室蘭市	柏木町
			母恋北町1丁目
		登別市	登別東町4丁目
		伊達市	南稀府町
白老町	高砂町2丁目		
日高振興局	日高町	富川西	
	新ひだか町	静内青柳町	
道南連携地域	函館市	石川町	
		石崎町	
		榎本町	
		大森町	
		川上町	
		陣川町	
		田家町	
	北斗市	東前	
	七飯町	上藤城	
	森町	尾白内町	
	八雲町	住初町	

圏域	抽出市町村		抽出地点
道南 連携地域	檜山振興局	せたな町	大成区久遠
道北 連携地域	上川総合振興局	旭川市	2条西4丁目
			9条通22丁目
			神楽2条12丁目
			神楽6条13丁目
			神居6条16丁目
			忠和2条5丁目
			東光15条4丁目
			豊岡2条6丁目
			永山1条22丁目
	名寄市	東2条北9丁目	
	富良野市	朝日町	
	上富良野町	南町3丁目	
	東神楽町	南1条東	
	鷹栖町	北1条	
留萌振興局	留萌市	本町	
宗谷総合振興局	稚内市	潮見1丁目	
	枝幸町	新栄町	
オホーツク 連携地域	オホーツク総合振興局	北見市	花月町
			川沿町
			北9条東
		網走市	9条西(北・南)
		紋別市	南が丘町3丁目
		美幌町	仲町1丁目
		遠軽町	東町
		大空町	女満別西4条
十勝 連携地域	十勝総合振興局	帯広市	大川町
			公園東町3丁目
			清流東
			西8条北
			西17条北2丁目
		音更町	桜が丘西
		清水町	北1条
		芽室町	東2条南7丁目
		幕別町	宝町
		池田町	利別本町

圏域	抽出市町村		抽出地点
釧路・根室連携地域	釧路総合振興局	釧路市	暁町
			阿寒町北新町
			音別町中園
			貝塚2丁目
			白金町
	釧路町	東陽西2丁目	
	厚岸町	松葉	
	根室振興局	根室市	朝日町
		中標津町	西7条南

5 この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上記の式により、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P) 回答者数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
732	±3.14%	±4.18%	±4.79%	±5.12%	±5.23%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が732で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±5.12%以内（54.88～65.12%）である」とみることができる。

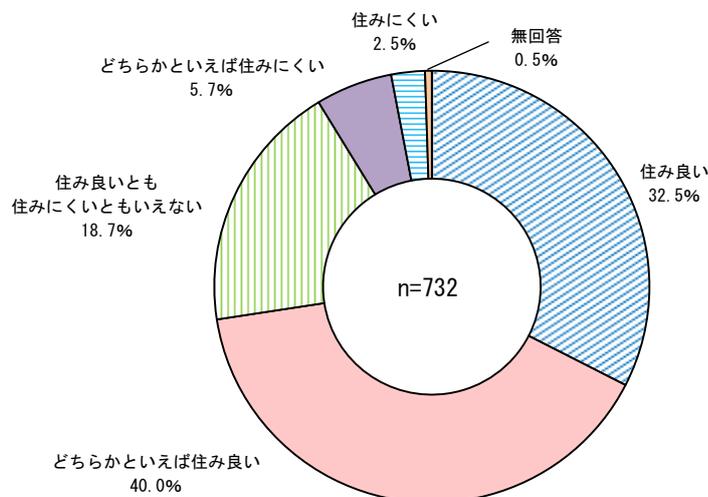
- (4) 圏域別（道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」（P5～P9）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、このうち上位2項目について、【圏域別】【人口規模別】【性別】【年代別】【職種別】【居住年数別】の種別による状況を記載した。

なお、【職種別】の種別による状況において、「学生」の回答比率が上位2項目となった場合、回答者数が少なく標本誤差が大きいことから、「学生」を除外した記述とした。

調查結果

1 北海道総合計画について

問1 あなたは、現在住んでいる市町村の住み心地について、どのように感じていますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「どちらかといえば住み良い」(40.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「住み良い」(32.5%)、「住み良いとも住みにくいともいえない」(18.7%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば住み良い」については、道北連携地域(47.1%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(45.6%)となっている。「住み良い」については、道央広域連携地域(34.3%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(33.3%)と釧路・根室連携地域(33.3%)が同率となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば住み良い」については、札幌市(44.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(42.9%)となっている。「住み良い」については、札幌市(42.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(29.8%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば住み良い」については、男性41.9%、女性38.7%となっており、「住み良い」については、男性30.4%、女性34.5%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば住み良い」については、30～39歳(49.5%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(45.7%)となっている。「住み良い」については、50～59歳(36.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(33.3%)となっている。

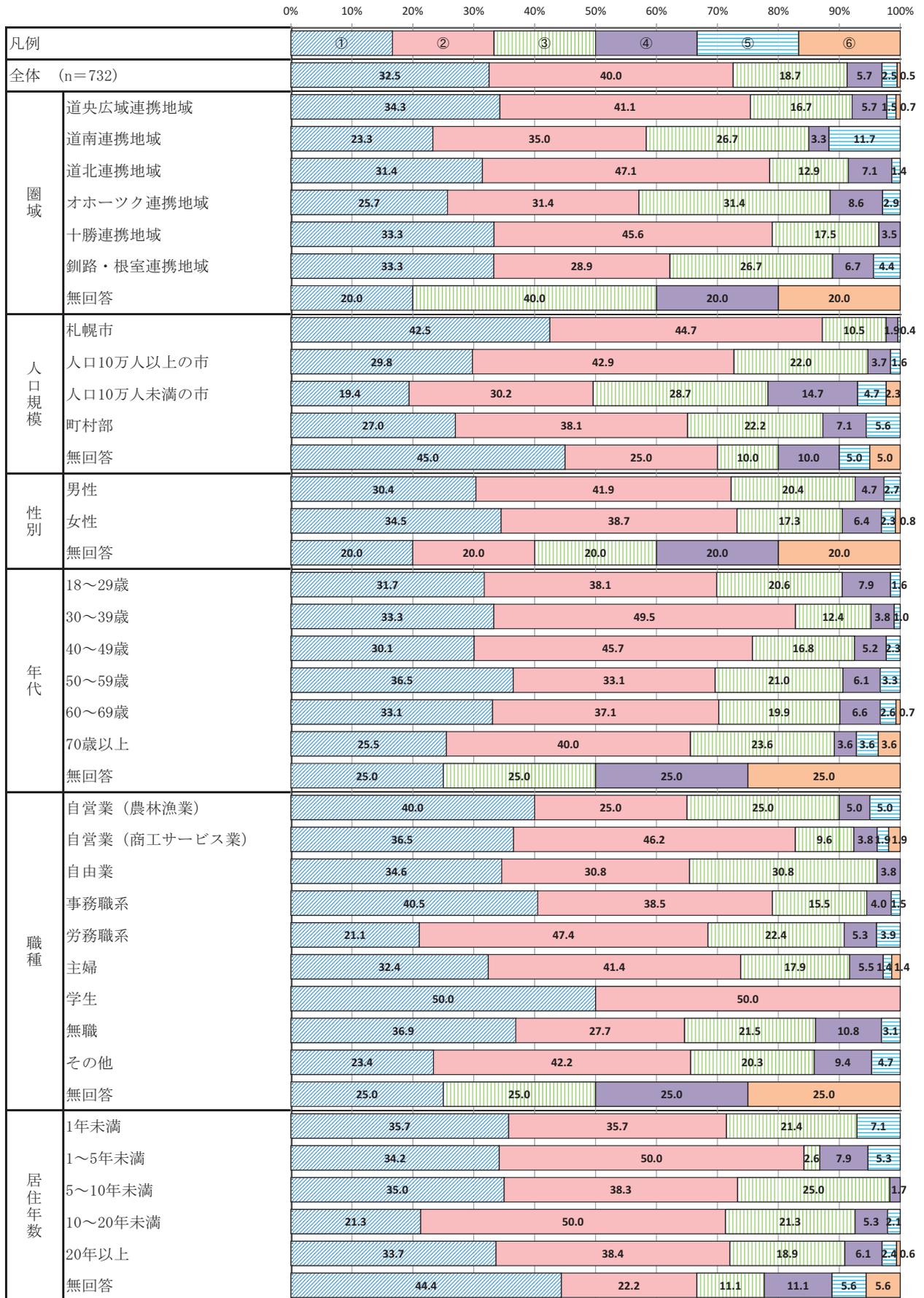
【職種別】

「どちらかといえば住み良い」については、労務職系(47.4%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス)(46.2%)となっている。「住み良い」については、事務職系(40.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(40.0%)となっている。

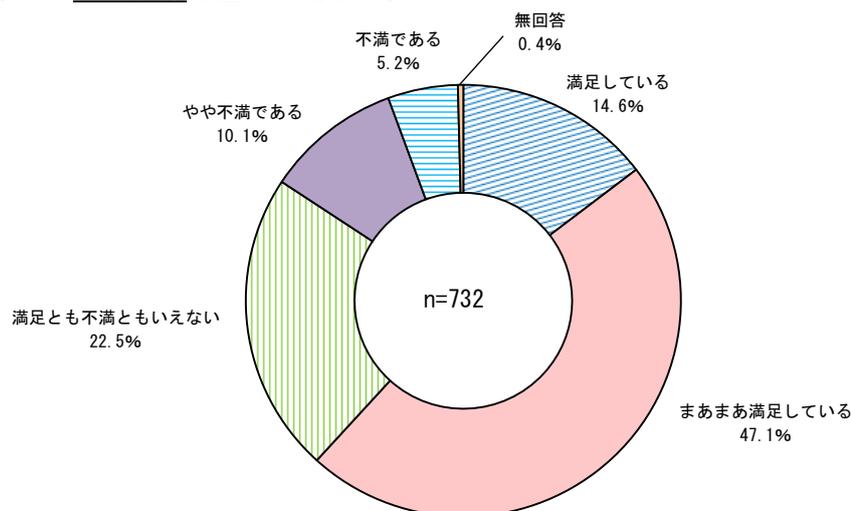
【居住年数別】

「どちらかといえば住み良い」については、1～5年未満(50.0%)と10～20年未満(50.0%)が同率で最も割合が高く、次いで20年以上(38.4%)となっている。「住み良い」については、1年未満(35.7%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(35.0%)となっている。

①住み良い ②どちらかといえば住み良い ③住み良いとも住みにくともいえない
 ④どちらかといえば住みにくい ⑤住みにくい ⑥無回答



問2 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「まあまあ満足している」(47.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「満足とも不満ともいえない」(22.5%)、「満足している」(14.6%)の順となっている。

【圏域別】

「まあまあ満足している」については、釧路・根室連携地域(55.6%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(49.3%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、道北連携地域(31.4%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(28.3%)となっている。

【人口規模別】

「まあまあ満足している」については、札幌市(53.4%)が最も割合が高く、次いで町村部(44.4%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、人口10万人以上の市(27.2%)が最も割合が高く、次いで札幌市(21.4%)となっている。

【性別】

「まあまあ満足している」については、男性49.9%、女性44.8%となっており、「満足とも不満ともいえない」については、男性23.0%、女性22.2%となっている。

【年代別】

「まあまあ満足している」については、30～39歳(53.3%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(52.3%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、70歳以上(25.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(24.8%)となっている。

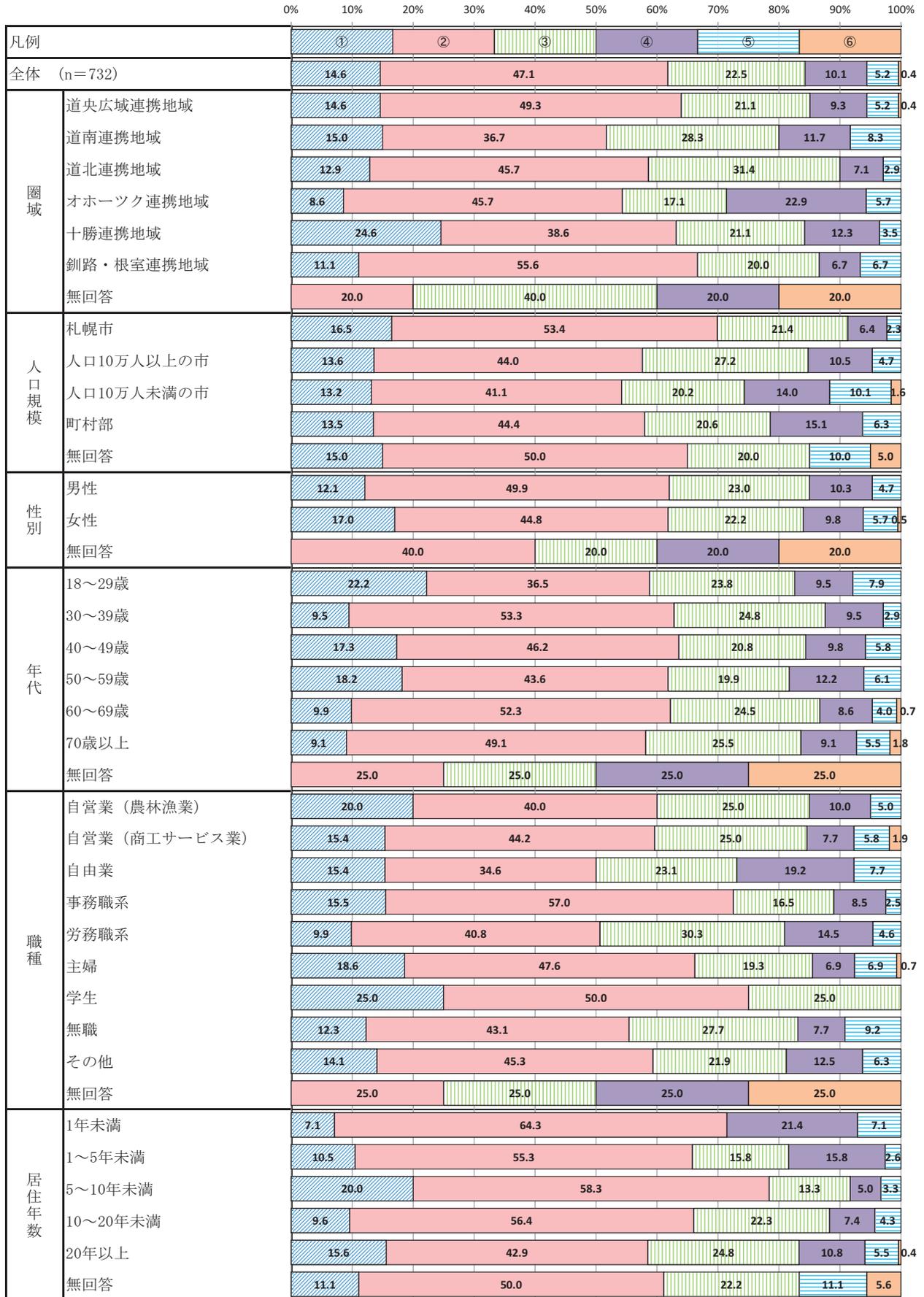
【職種別】

「まあまあ満足している」については、事務職系(57.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(47.6%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、労務職系(30.3%)が最も割合が高く、次いで無職(27.7%)となっている。

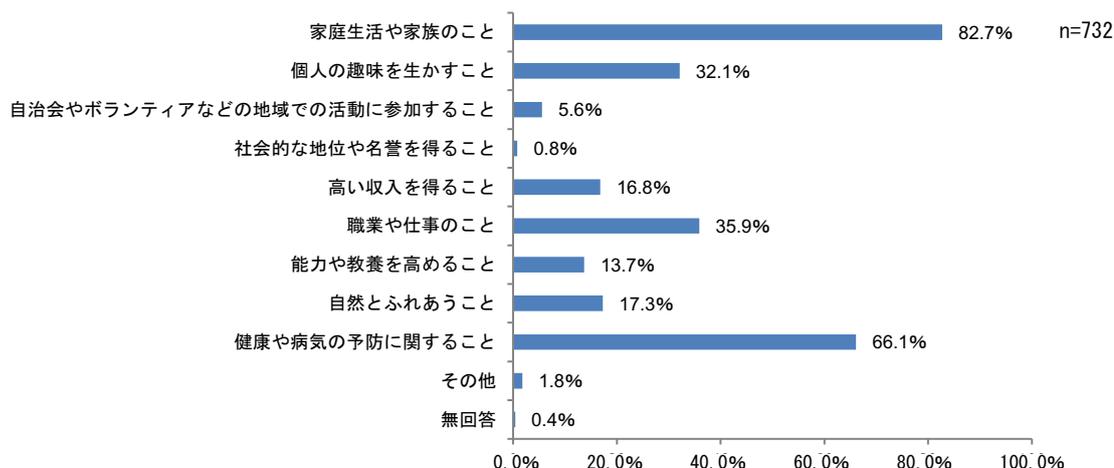
【居住年数別】

「まあまあ満足している」については、1年未満(64.3%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(58.3%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、20年以上(24.8%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(22.3%)となっている。

①満足している ②まあまあ満足している ③満足とも不満ともいえない
 ④やや不満である ⑤不満である ⑥無回答



問3 あなたは、今後の生活の中で、特にどのようなことを大切にしたいと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「家庭生活や家族のこと」(82.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「健康や病気の予防に関すること」(66.1%)、「職業や仕事のこと」(35.9%)の順となっている。

【圏域別】

「家庭生活や家族のこと」については、オホーツク連携地域(88.6%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(88.3%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、釧路・根室連携地域(77.8%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(68.6%)となっている。

【人口規模別】

「家庭生活や家族のこと」については、人口10万人以上の市(84.8%)が最も割合が高く、次いで町村部(84.1%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、人口10万人未満の市(69.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(65.4%)となっている。

【性別】

「家庭生活や家族のこと」については、男性82.6%、女性83.5%となっており、「健康や病気の予防に関すること」については、男性61.4%、女性70.4%となっている。

【年代別】

「家庭生活や家族のこと」については、40～49歳(89.0%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(87.6%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、60～69歳(80.8%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(74.6%)となっている。

【職種別】

「家庭生活や家族のこと」については、事務職系(87.5%)が最も割合が高く、次いで主婦(86.9%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、主婦(80.0%)が最も割合が高く、次いでその他(75.0%)となっている。

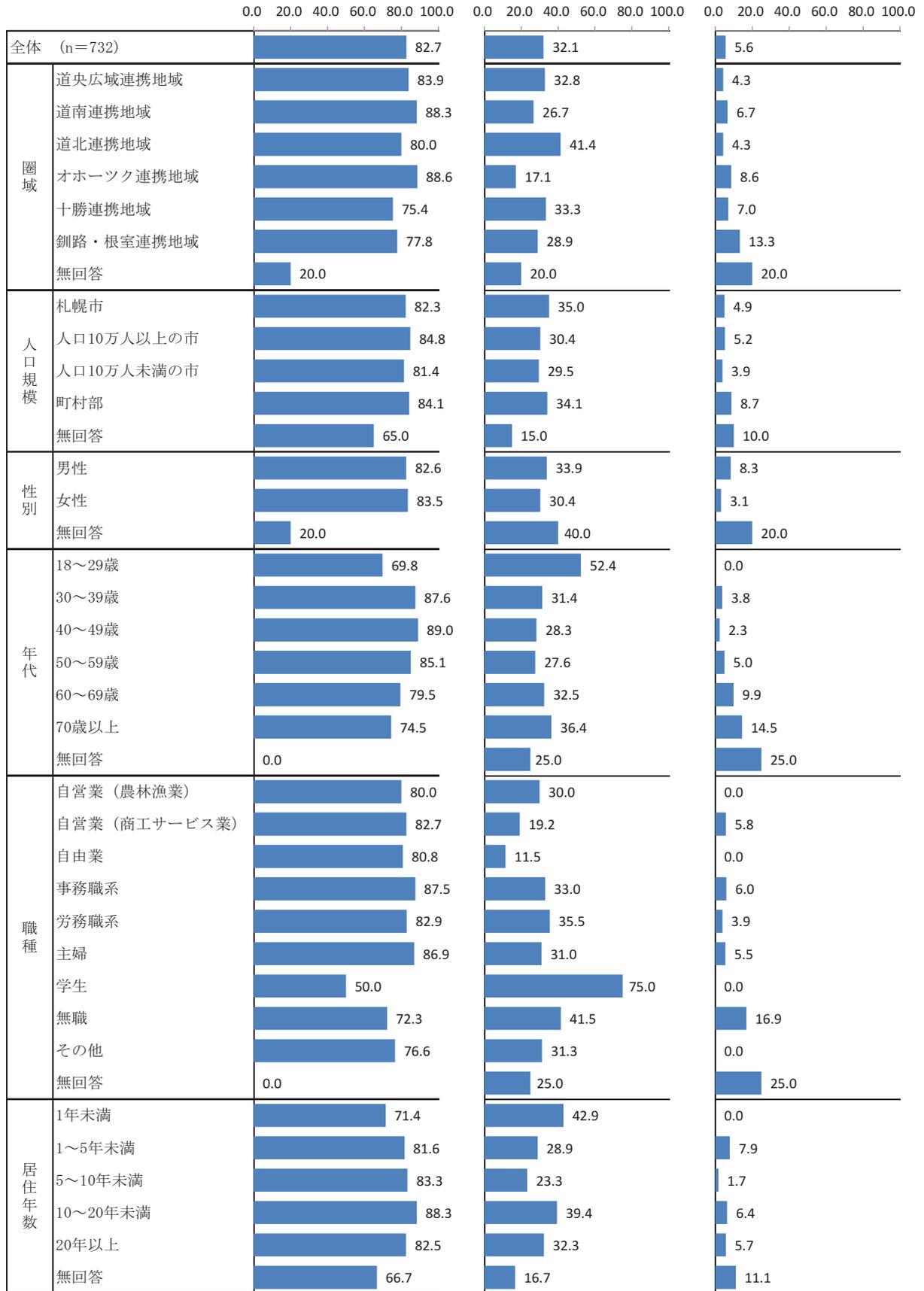
【居住年数別】

「家庭生活や家族のこと」については、10～20年未満(88.3%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(83.3%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、20年以上(69.5%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(57.9%)となっている。

家庭生活や家族のこと

個人の趣味を生かすこと

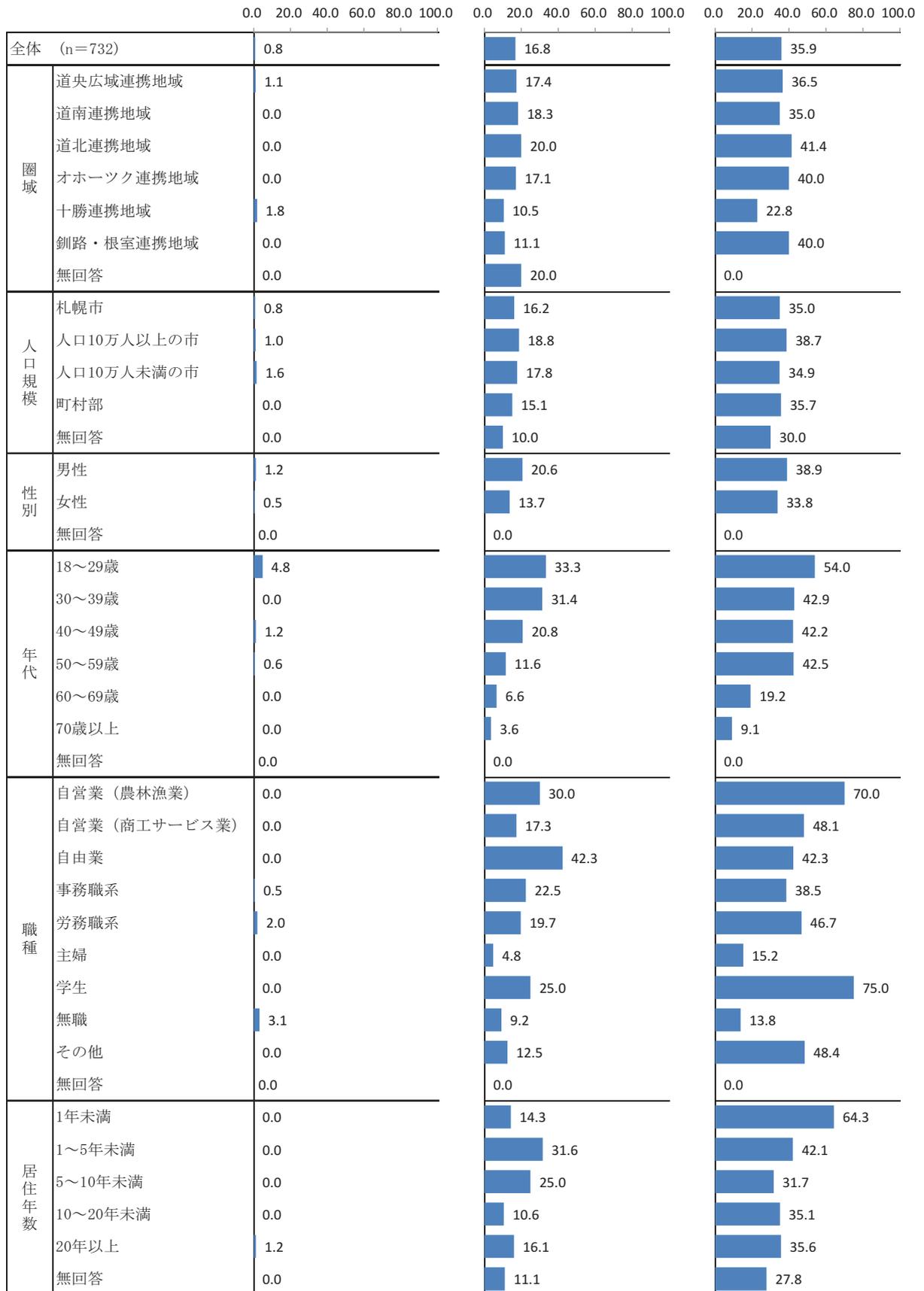
自治会やボランティアなどの
地域での活動に参加すること

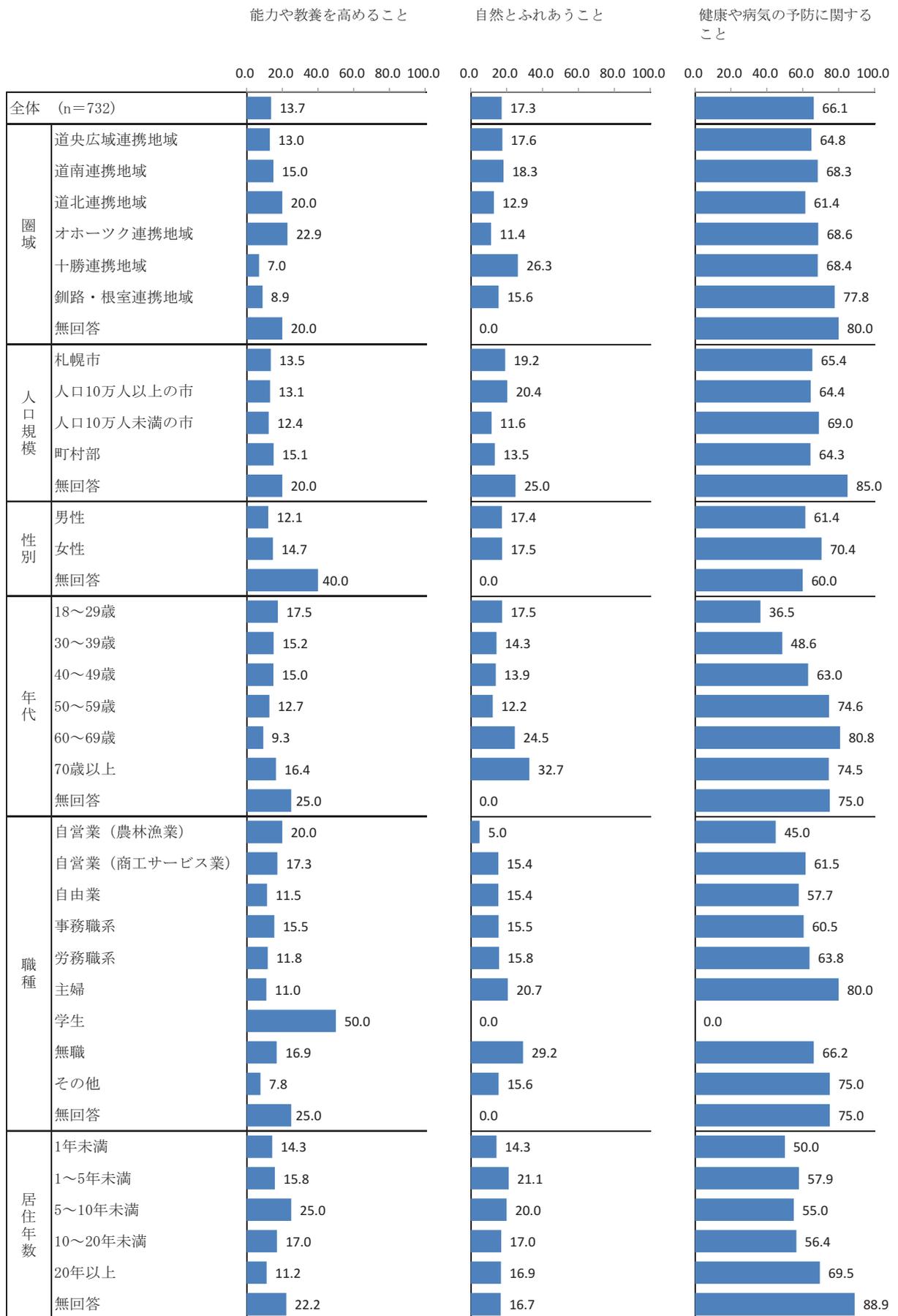


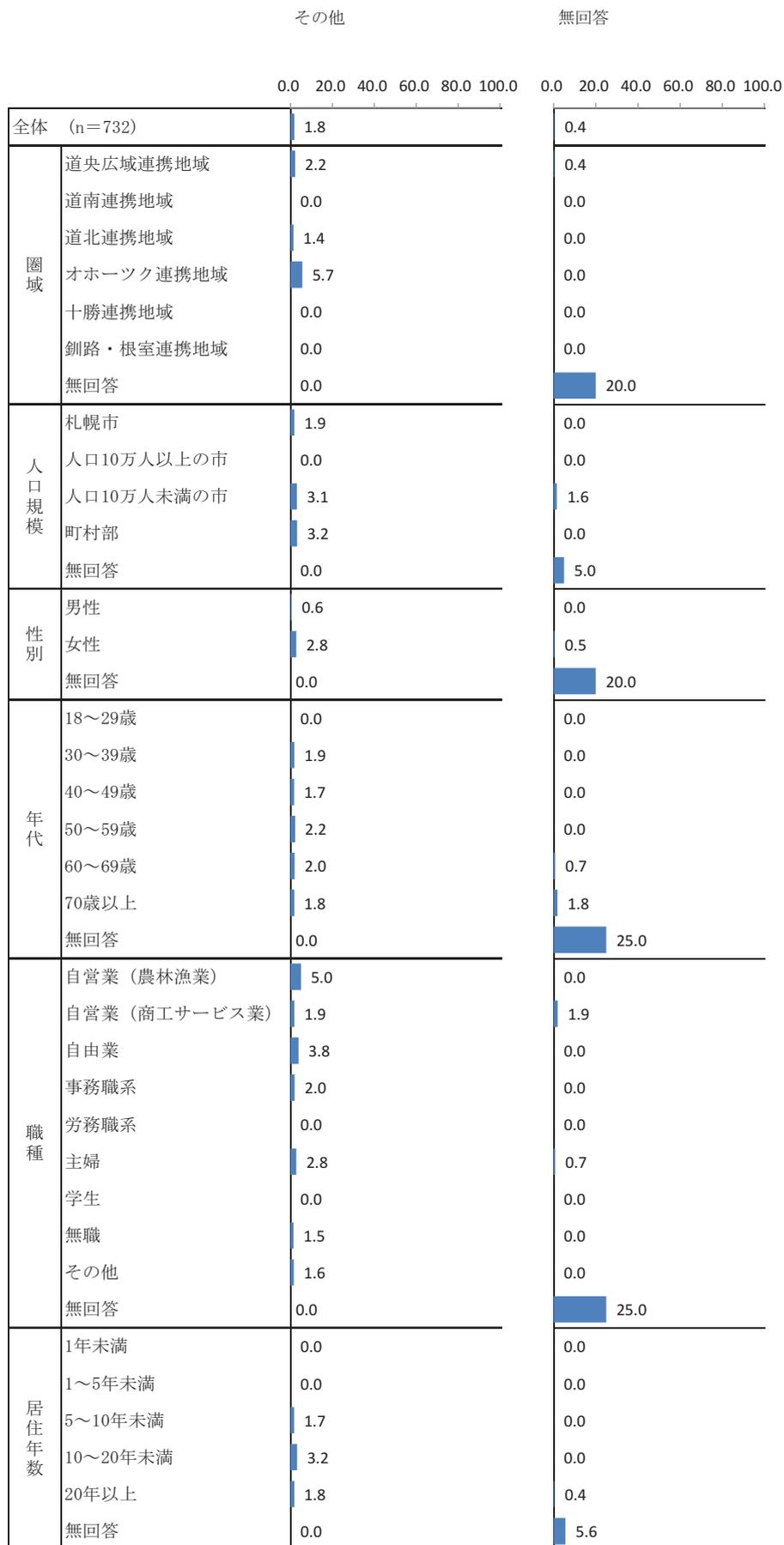
社会的な地位や名誉を得ること

高い収入を得ること

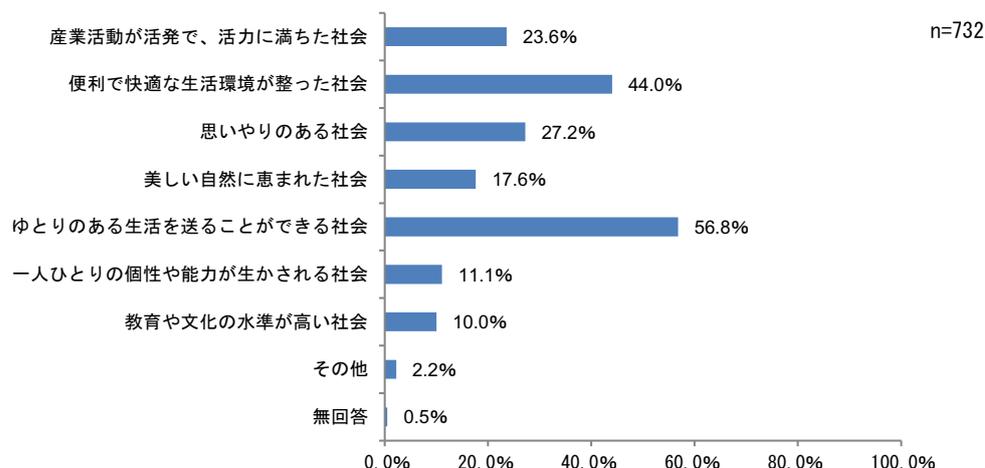
職業や仕事のこと







問4 あなたは、2030年(11年後)頃の北海道がどのような社会であってほしいと思いますか。次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」(56.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「便利で快適な生活環境が整った社会」(44.0%)、「思いやりのある社会」(27.2%)の順となっている。

【圏域別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、道北連携地域(72.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(63.3%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、十勝連携地域(49.1%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(48.9%)となっている。

【人口規模別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、人口10万人以上の市(60.7%)が最も割合が高く、次いで町村部(59.5%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、町村部(46.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(45.7%)となっている。

【性別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、男性56.9%、女性57.0%となっており、「便利で快適な生活環境が整った社会」については、男性42.5%、女性45.4%となっている。

【年代別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、60～69歳(63.6%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(59.7%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、18～29歳(52.4%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(50.9%)となっている。

【職種別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、労務職系(65.1%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(65.0%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、自由業(57.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(55.0%)となっている。

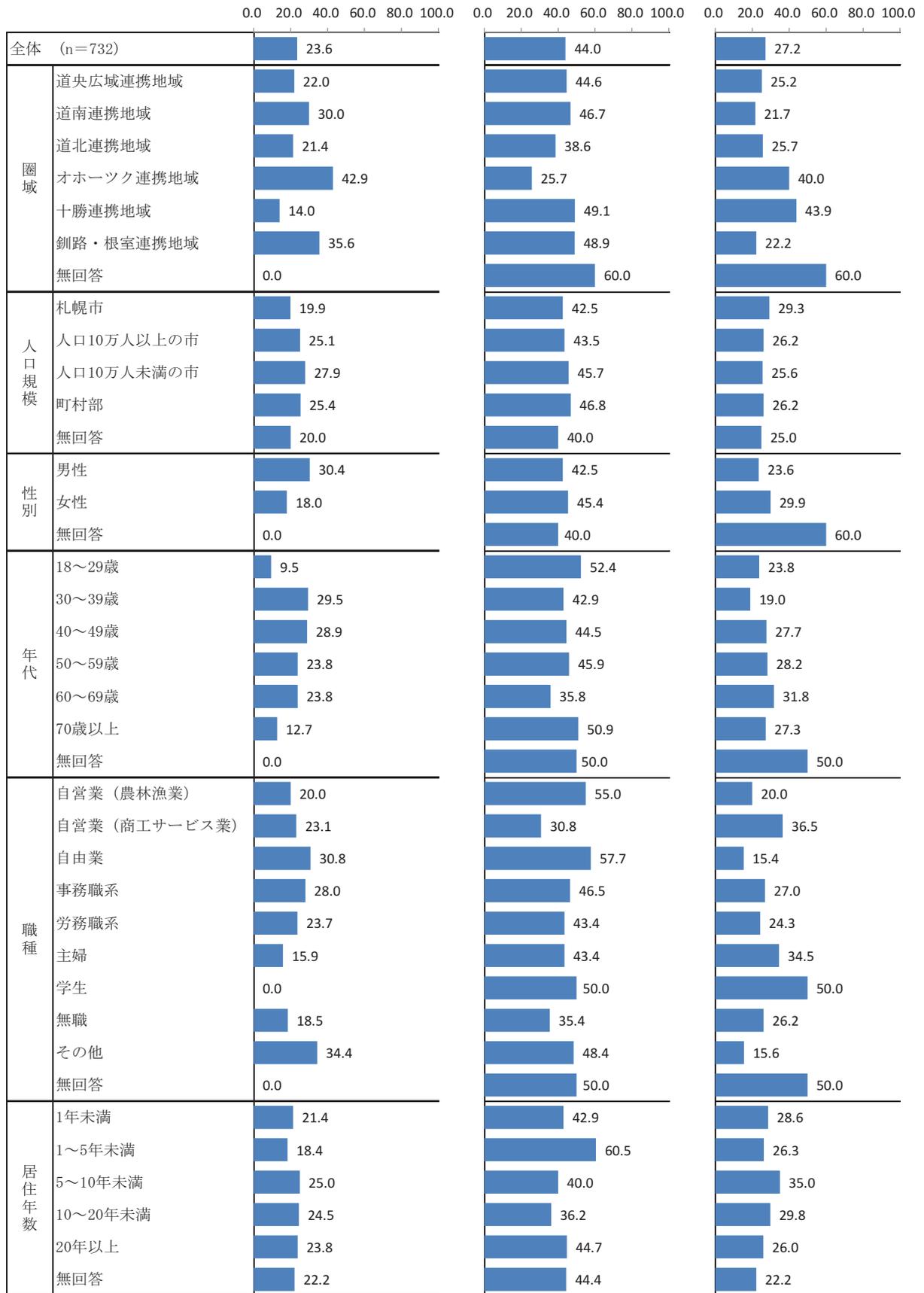
【居住年数別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、20年以上(59.6%)が最も割合が高く、次いで1年未満(57.1%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、1～5年未満(60.5%)が最も割合が高く、次いで20年以上(44.7%)となっている。

産業活動が活発で、活力に満ちた社会

便利で快適な生活環境が整った社会

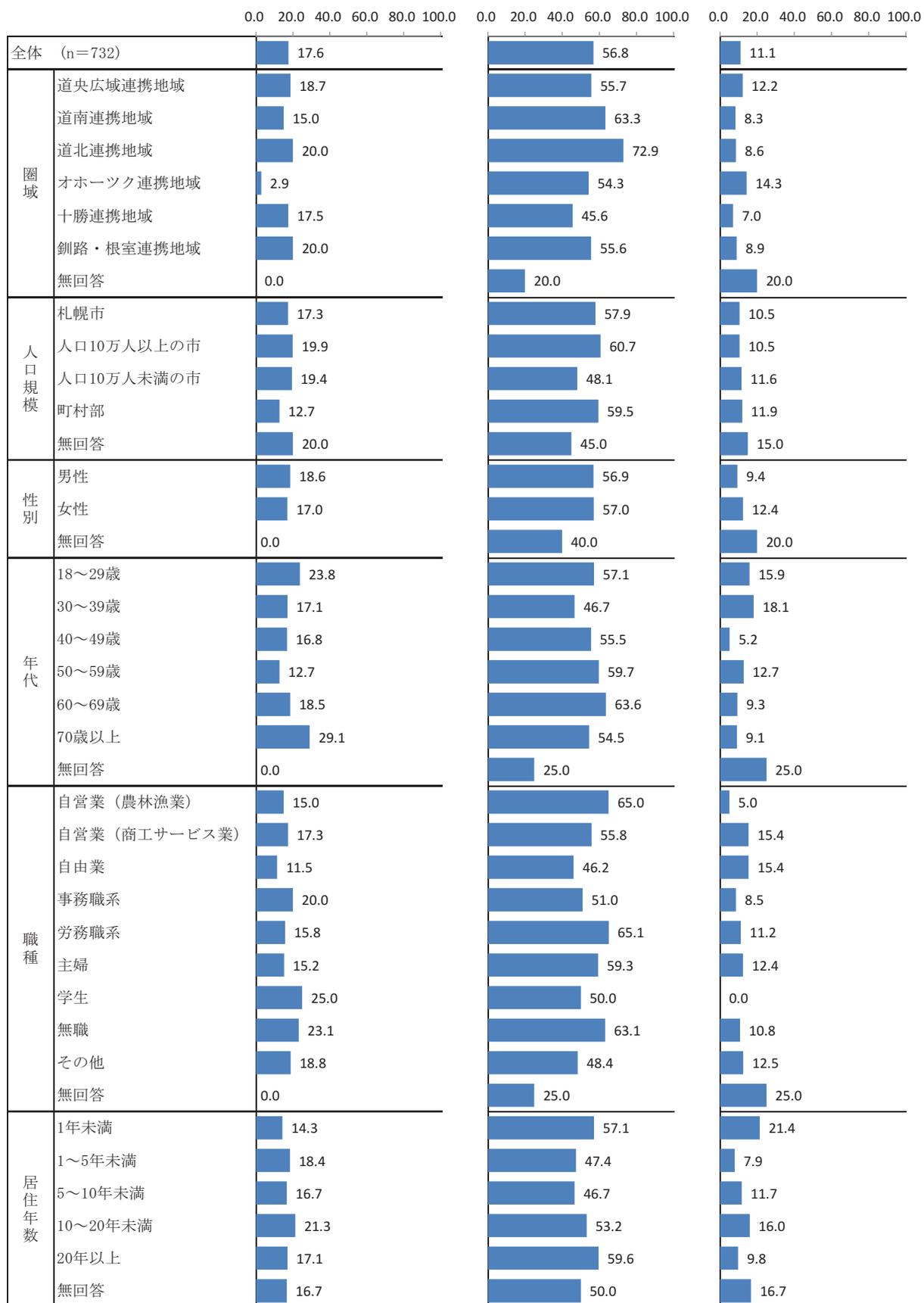
思いやりのある社会



美しい自然に恵まれた社会

ゆとりのある生活を送ることができる社会

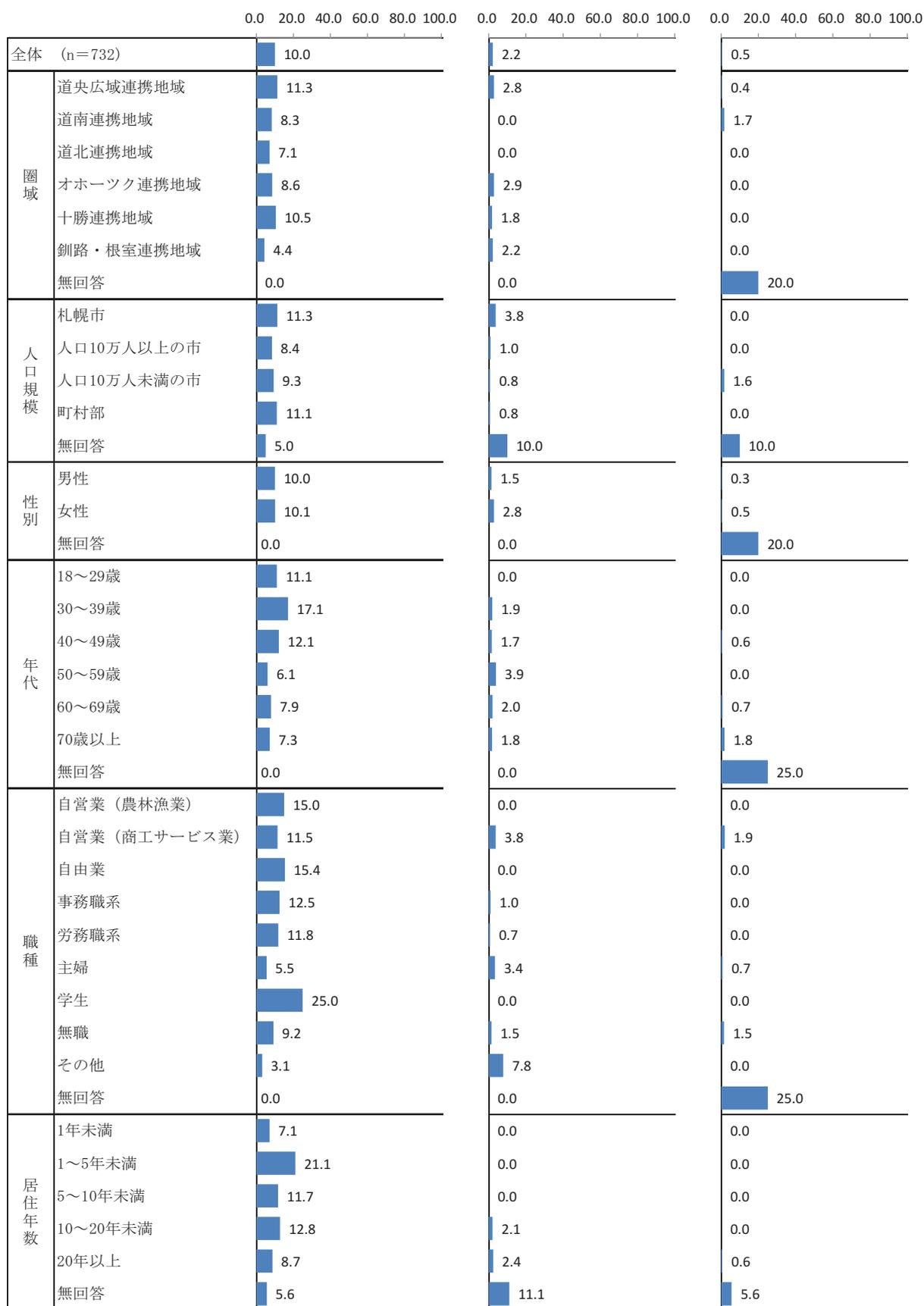
一人ひとりの個性や能力が生かされる社会



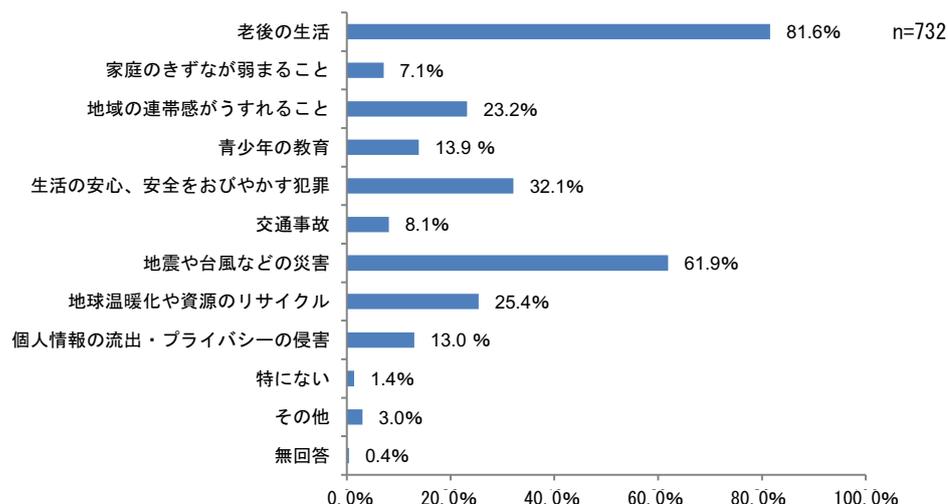
教育や文化の水準が高い社会

その他

無回答



問5 あなたの家庭や地域の中で、今後、どのようなことが特に大きな問題になると
 思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「老後の生活」(81.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「地震や台風などの災害」(61.9%)、「生活の安心、安全をおびやかす犯罪」(32.1%)の順となっている。

【圏域別】

「老後の生活」については、釧路・根室連携地域(93.3%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(88.6%)となっている。「地震や台風などの災害」については、釧路・根室連携地域(75.6%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(71.9%)となっている。

【人口規模別】

「老後の生活」については、町村部(84.9%)が最も割合が高く、次いで札幌市(81.6%)となっている。「地震や台風などの災害」については、札幌市(63.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(61.8%)となっている。

【性別】

「老後の生活」については、男性82.9%、女性80.7%となっており、「地震や台風などの災害」については、男性57.5%、女性65.7%となっている。

【年代別】

「老後の生活」については、60～69歳(87.4%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(86.7%)となっている。「地震や台風などの災害」については、50～59歳(68.5%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(65.5%)となっている。

【職種別】

「老後の生活」については、労務職系(85.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(85.0%)となっている。「地震や台風などの災害」については、主婦(68.3%)が最も割合が高く、次いで事務職系(66.5%)となっている。

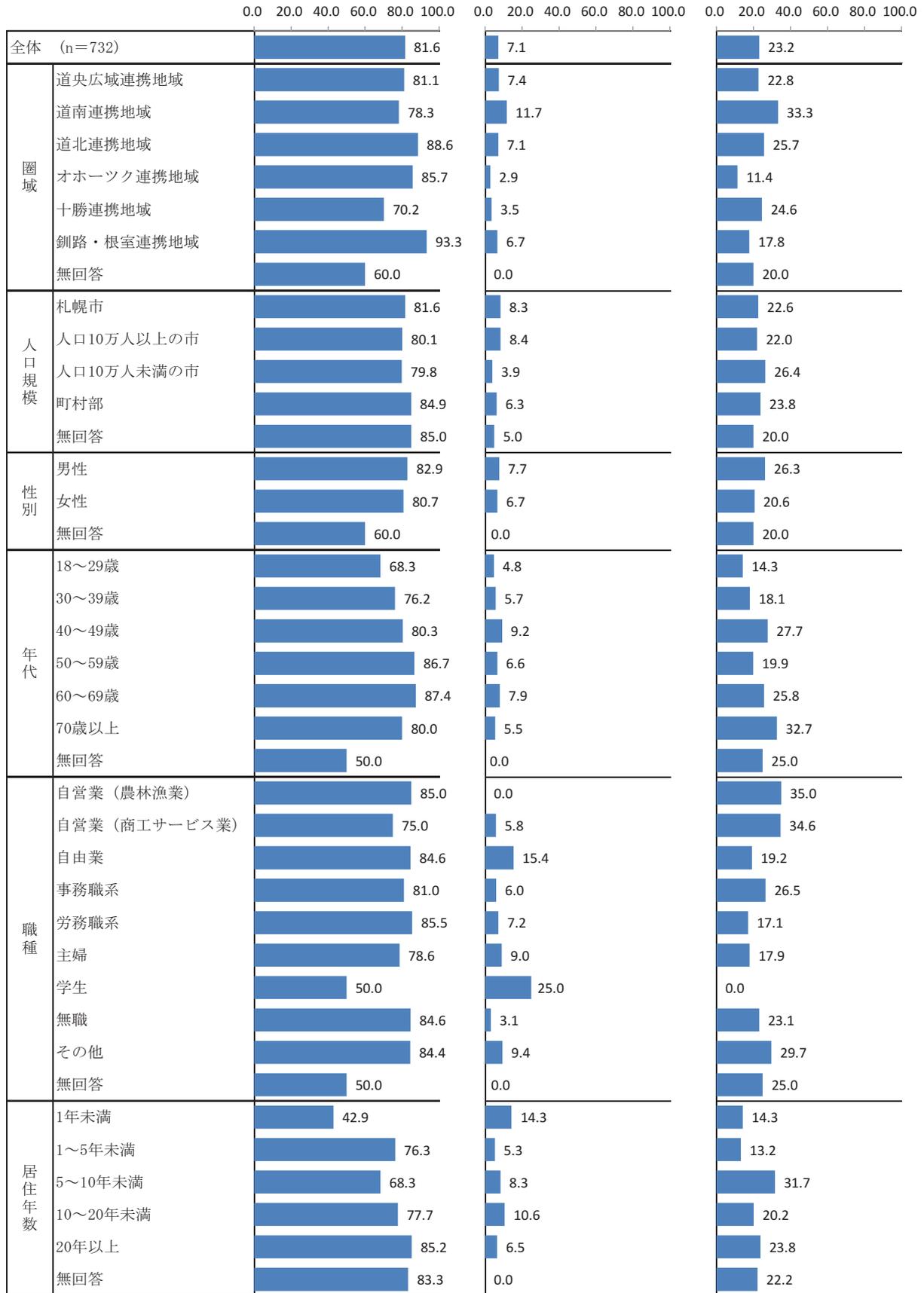
【居住年数別】

「老後の生活」については、20年以上(85.2%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(77.7%)となっている。「地震や台風などの災害」については、1～5年未満(65.8%)が最も割合が高く、次いで1年未満(64.3%)となっている。

老後の生活

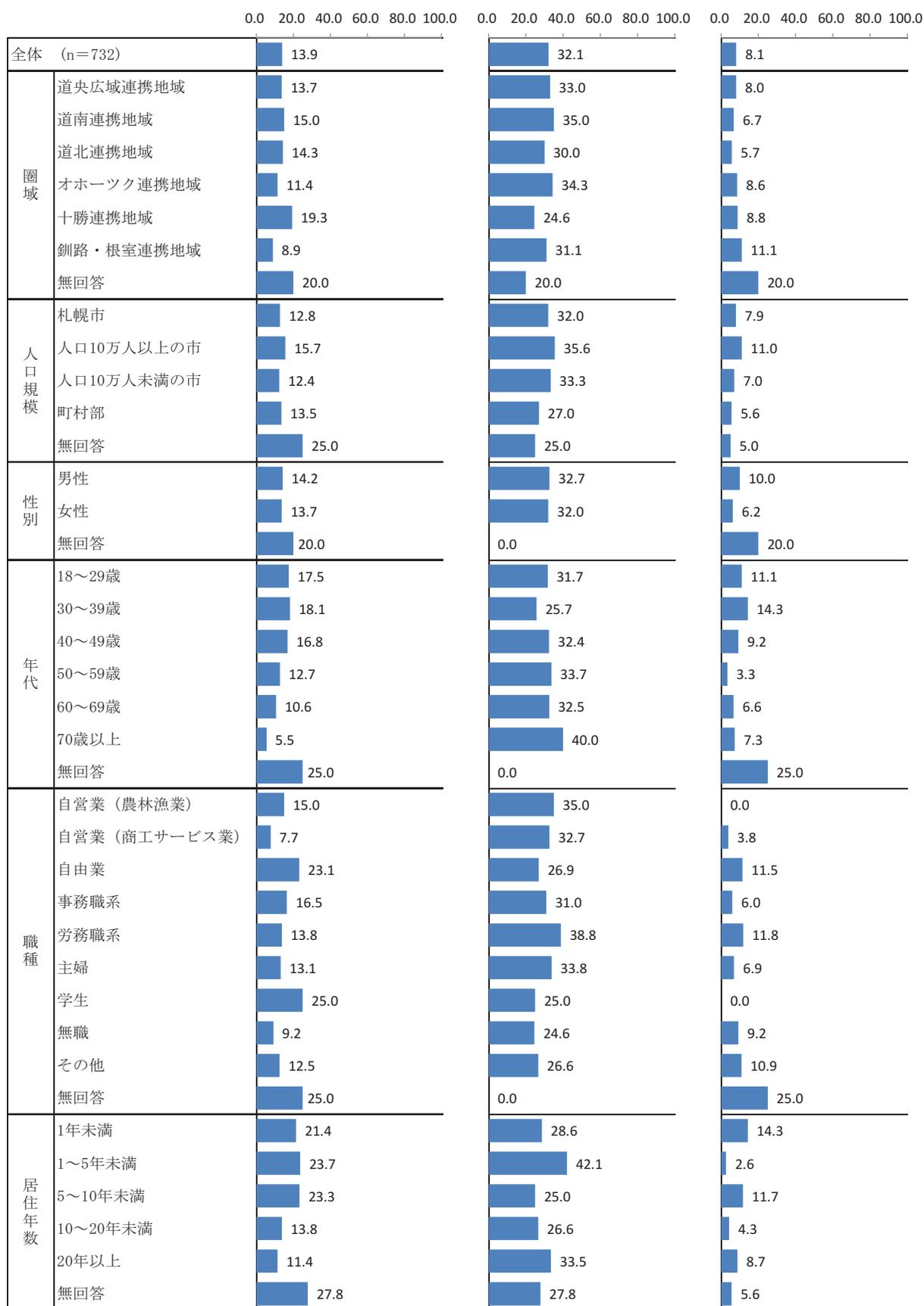
家庭のきずなが弱まること

地域の連帯感がうすれること



青少年の教育

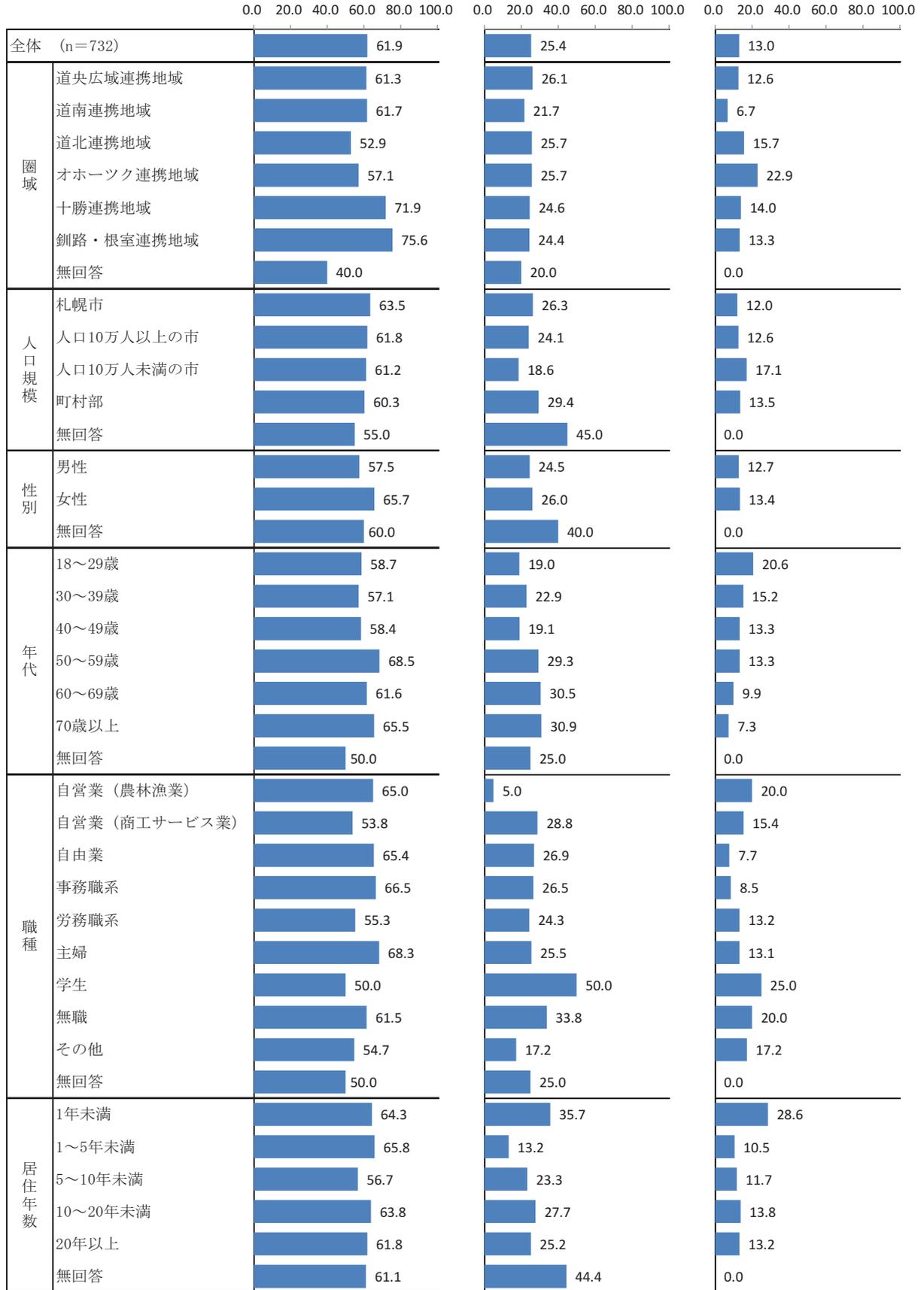
生活の安心、安全をおびやかす
交通事故
犯罪

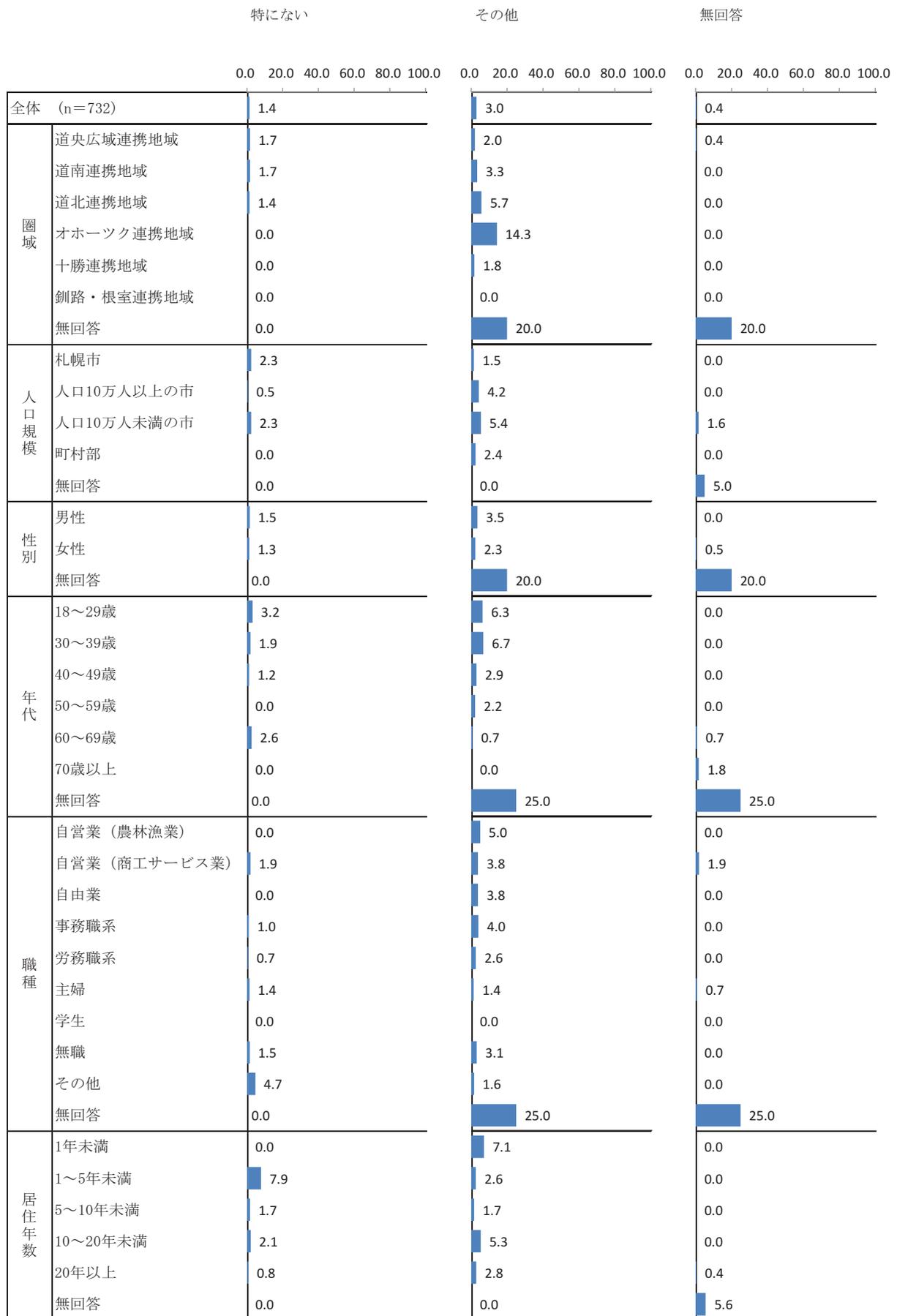


地震や台風などの災害

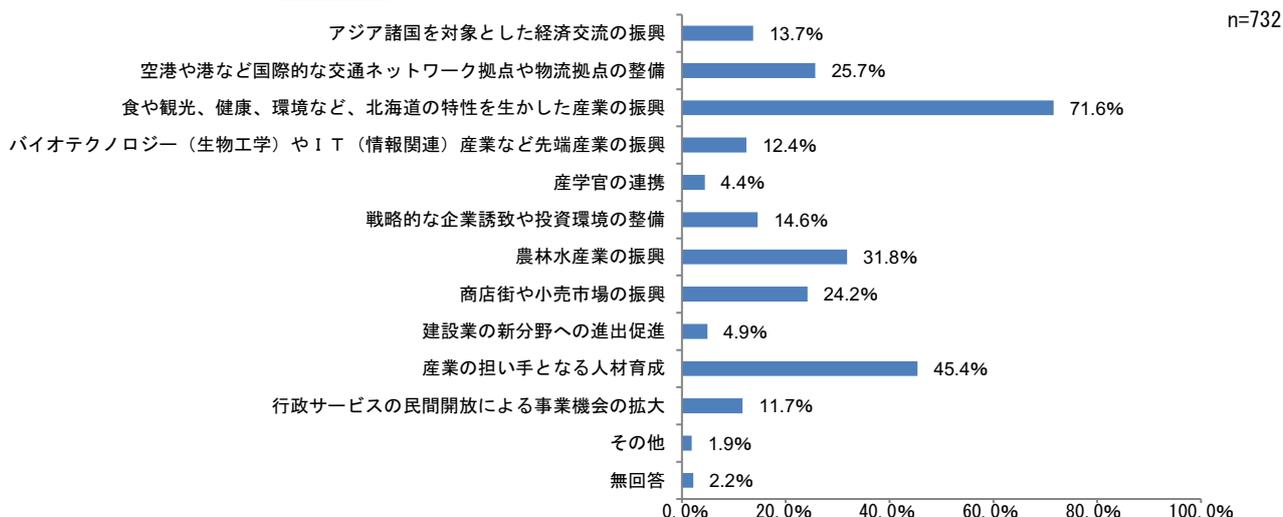
地球温暖化や資源のリサイクル

個人情報の流出・プライバシーの侵害





問6 急速な国際化が進む中で、道内の経済・産業の活性化を図るためには、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」（71.6%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「産業の担い手となる人材育成」（45.4%）、「農林水産業の振興」（31.8%）の順となっている。

【圏域別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、道北連携地域（77.1%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（75.6%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、道南連携地域（51.7%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（50.0%）となっている。

【人口規模別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、人口10万人未満の市（74.4%）が最も割合が高く、次いで札幌市（71.4%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、人口10万人未満の市（48.8%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（47.1%）となっている。

【性別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、男性67.8%、女性75.0%となっており、「産業の担い手となる人材育成」については、男性41.0%、女性49.5%となっている。

【年代別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、18～29歳（77.8%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（76.4%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、60～69歳（53.6%）が最も割合が高く、次いで18～29歳（52.4%）となっている。

【職種別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、主婦（77.9%）が最も割合が高く、次いで労務職系（73.0%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、無職（50.8%）が最も割合が高く、次いで主婦（47.6%）となっている。

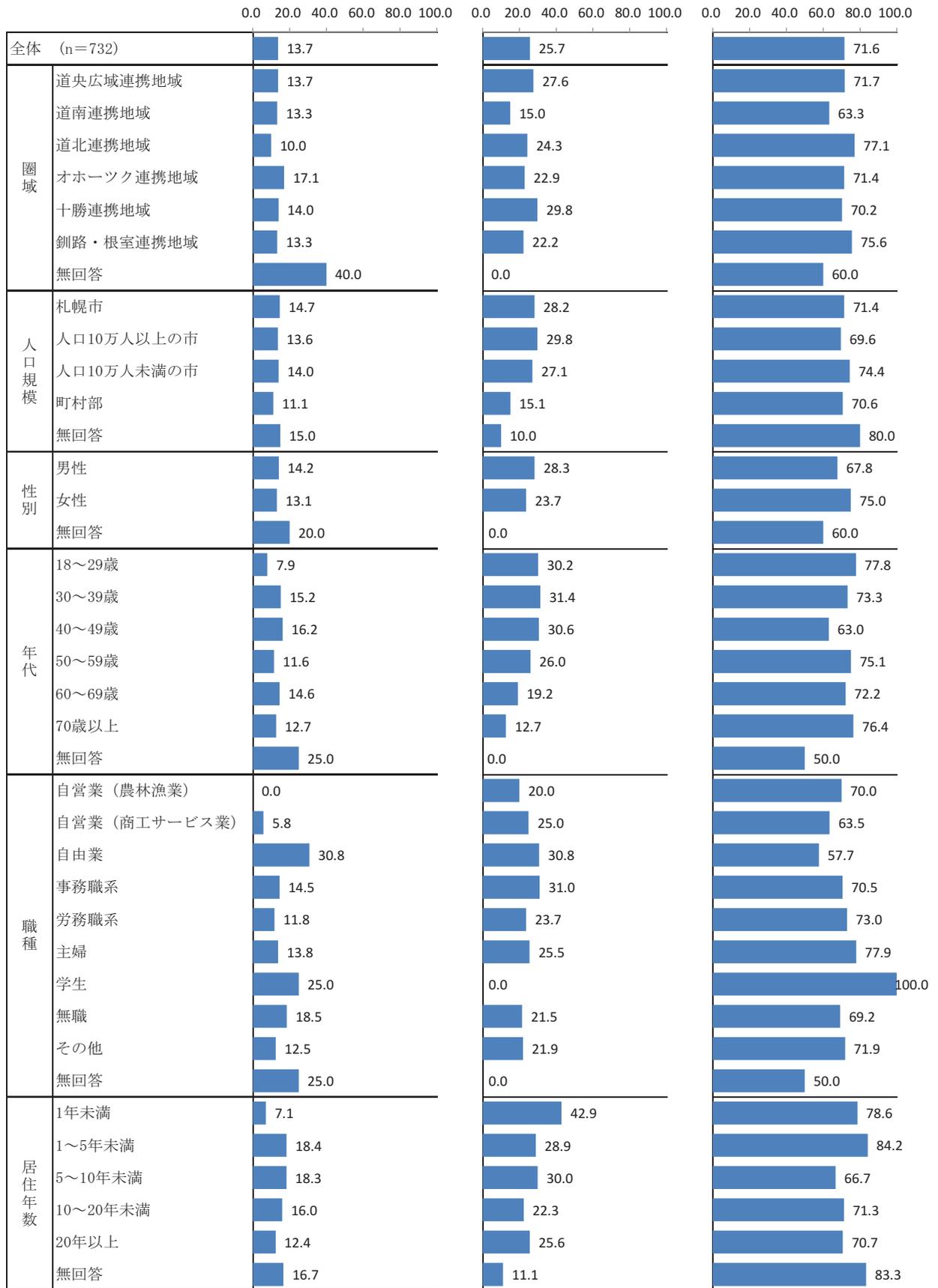
【居住年数別】

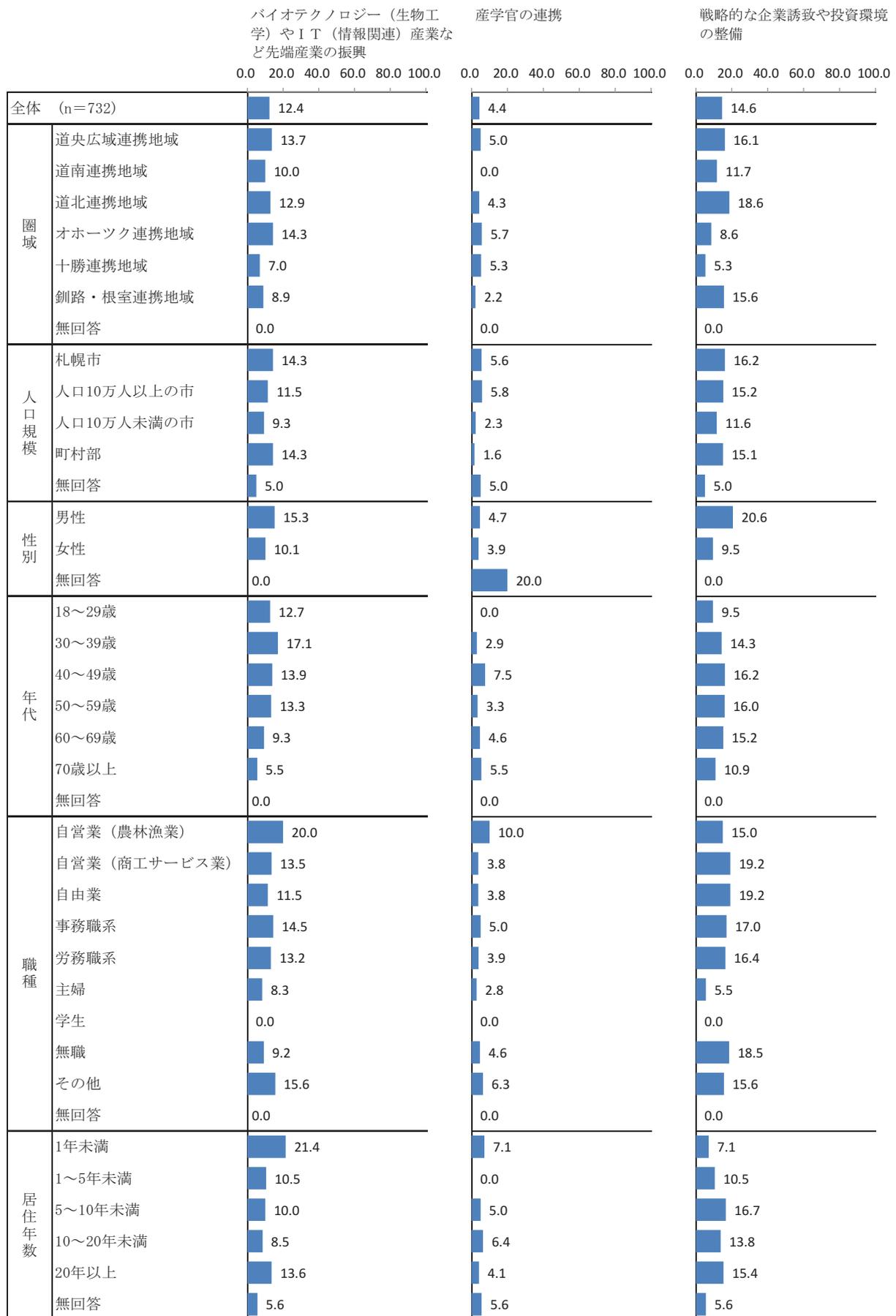
「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、1～5年未満（84.2%）が最も割合が高く、次いで1年未満（78.6%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、10～20年未満（46.8%）が最も割合が高く、次いで20年以上（46.1%）となっている。

アジア諸国を対象とした経済交流の振興

空港や港など国際的な交通ネットワーク拠点や物流拠点の整備

食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興

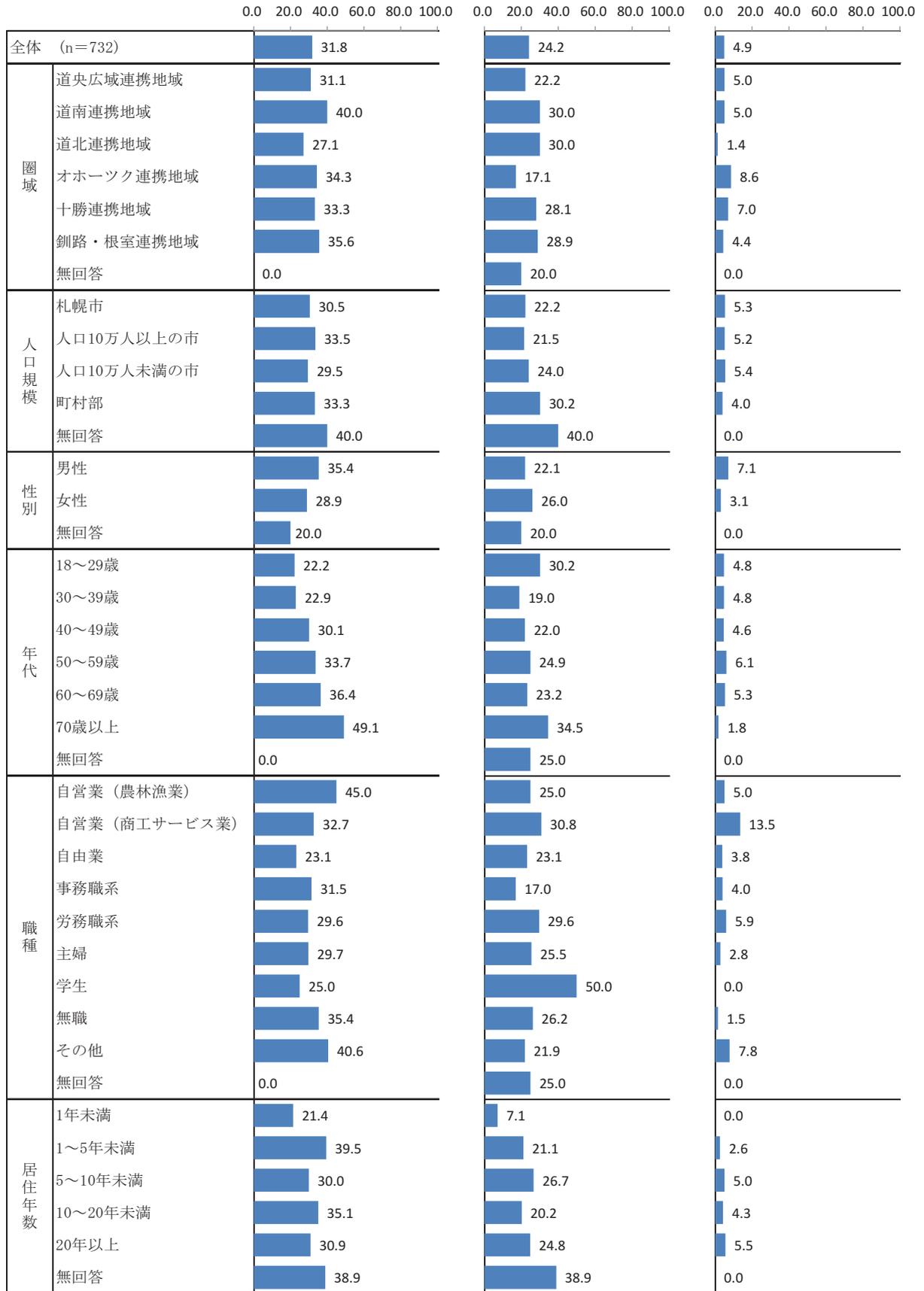




農林水産業の振興

商店街や小売市場の振興

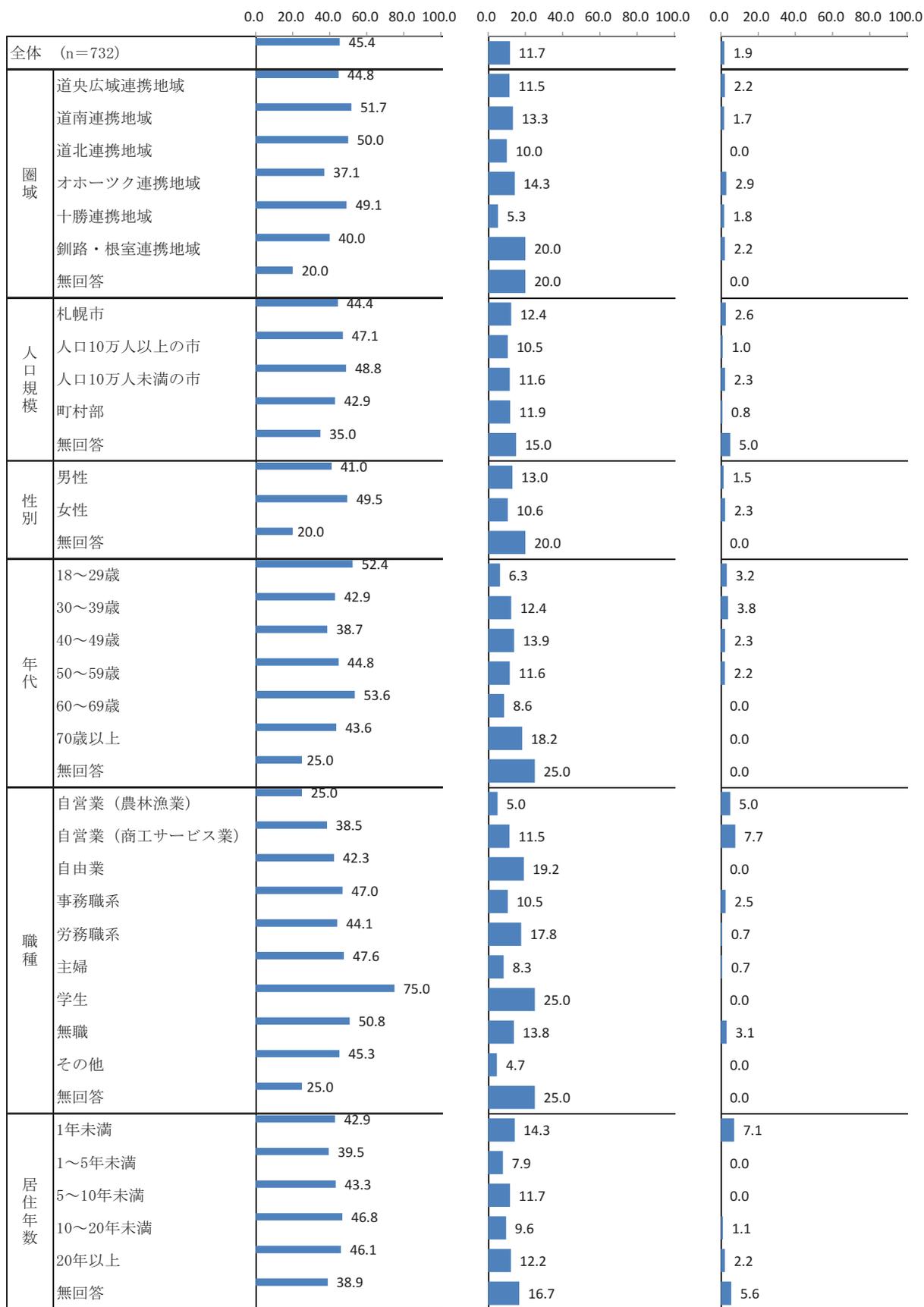
建設業の新分野への進出促進



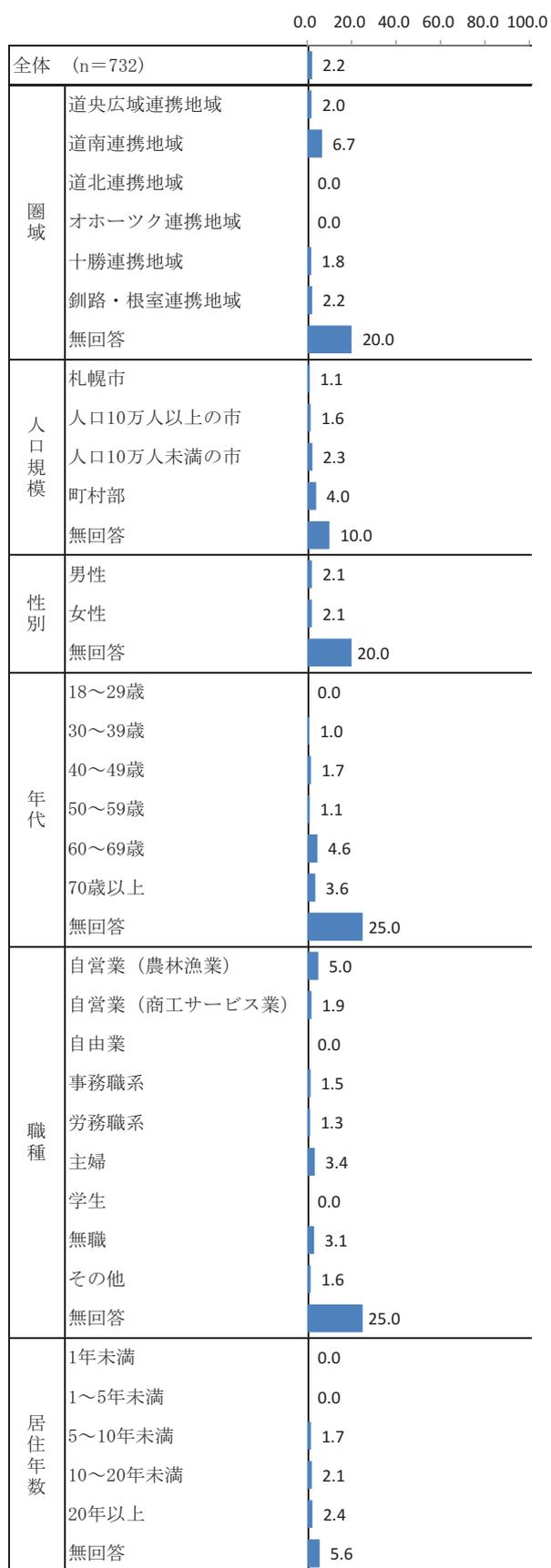
産業の担い手となる人材育成

行政サービスの民間開放による
事業機会の拡大

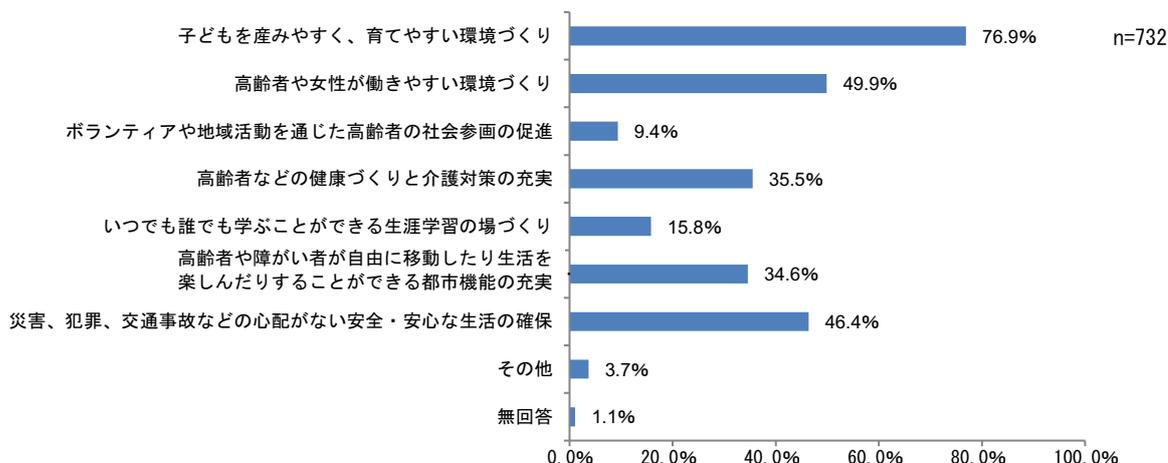
その他



無回答



問7 本格的な人口減少・少子高齢社会の到来に備えて、住みよい地域社会を実現していくために、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」(76.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」(49.9%)、「災害、犯罪、交通事故などの心配がない安全・安心な生活の確保」(46.4%)の順となっている。

【圏域別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、道南連携地域(83.3%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(82.9%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、オホーツク連携地域(65.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(57.8%)となっている。

【人口規模別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、町村部(81.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(77.4%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、人口10万人以上の市(53.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(49.6%)となっている。

【性別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、男性81.1%、女性73.5%となっており、「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、男性49.6%、女性50.8%となっている。

【年代別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、18～29歳(87.3%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(84.8%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、50～59歳(55.8%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(54.9%)となっている。

【職種別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、自営業(商工サービス)(82.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)と無職(80.0%)が同率となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、自営業(農林漁業)(60.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(57.9%)となっている。

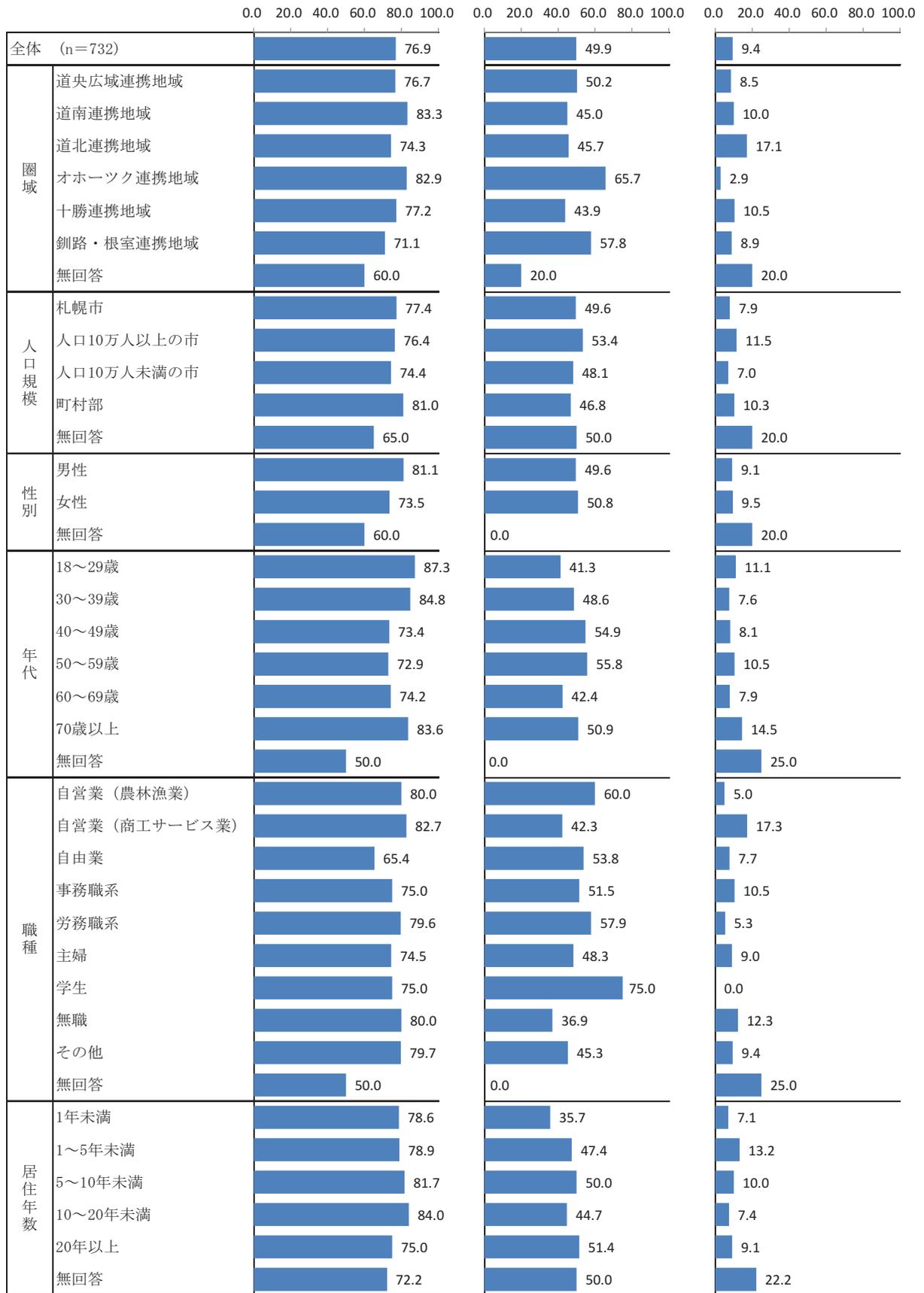
【居住年数別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、10～20年未満(84.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(81.7%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、20年以上(51.4%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(50.0%)となっている。

子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり

高齢者や女性が働きやすい環境づくり

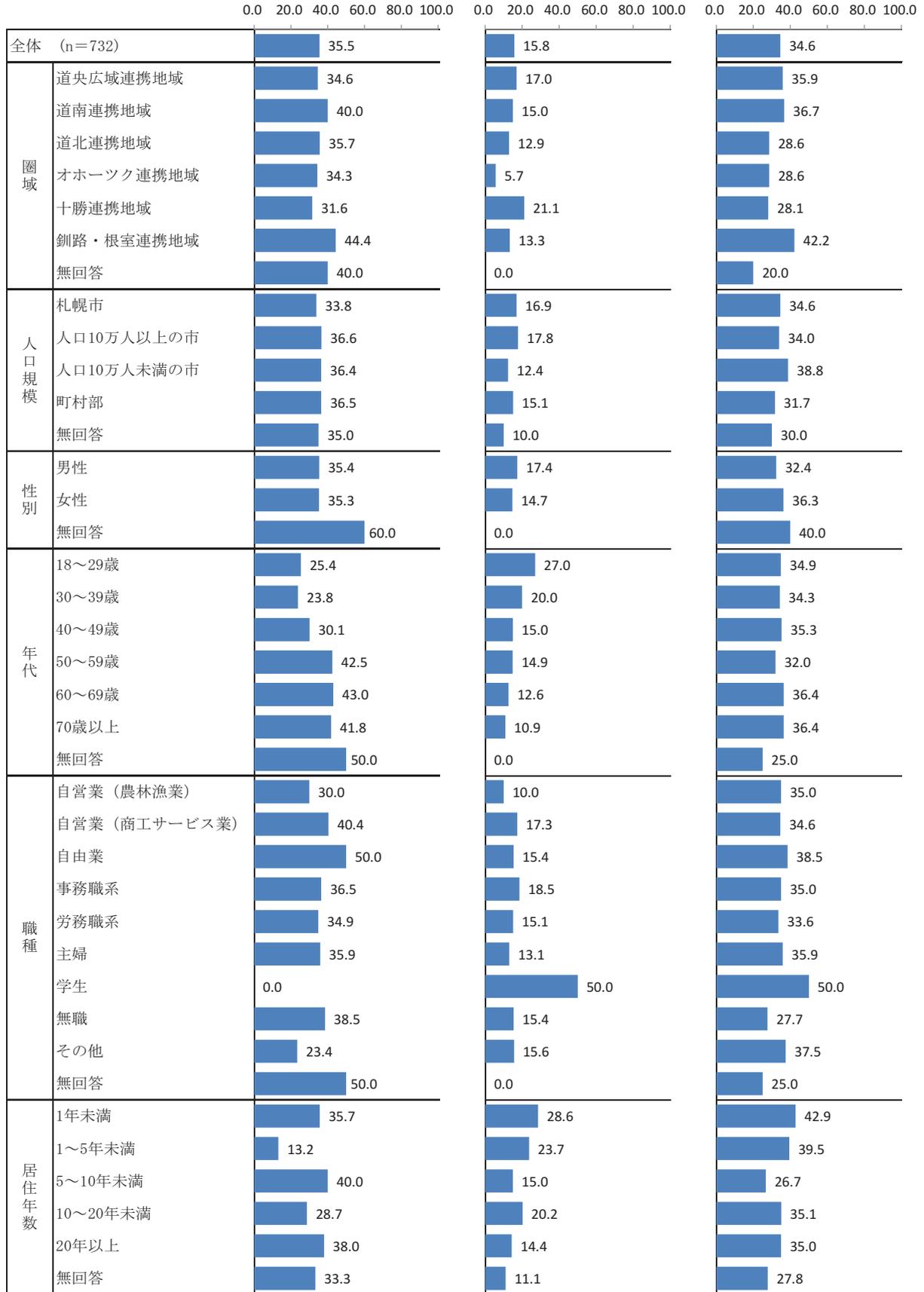
ボランティアや地域活動を通じた高齢者の社会参画の促進



高齢者などの健康づくりと介護
対策の充実

いつでも誰でも学ぶことができ
る生涯学習の場づくり

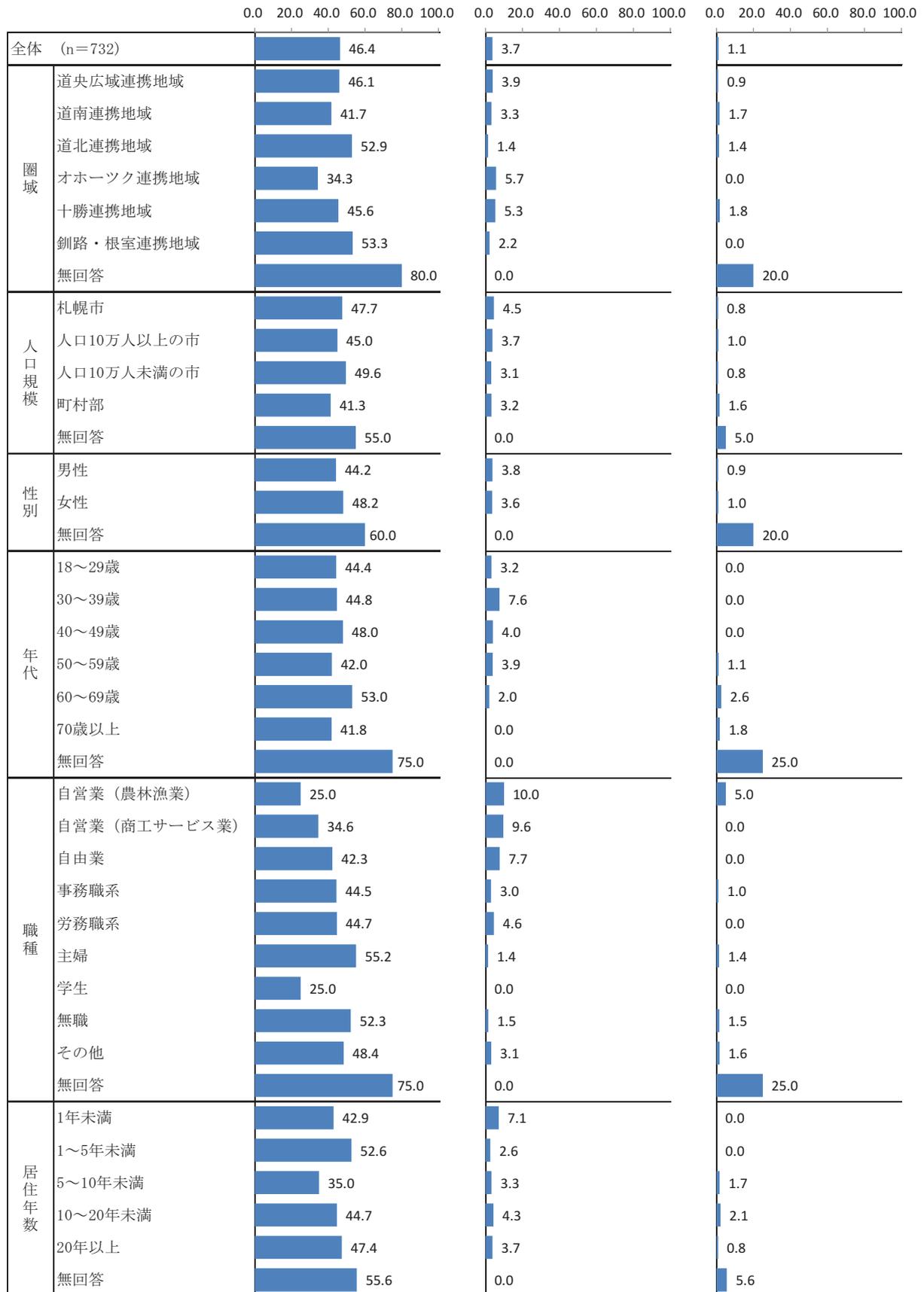
高齢者や障がい者が自由に移動
したり生活を楽しんだりするこ
とができる都市機能の充実



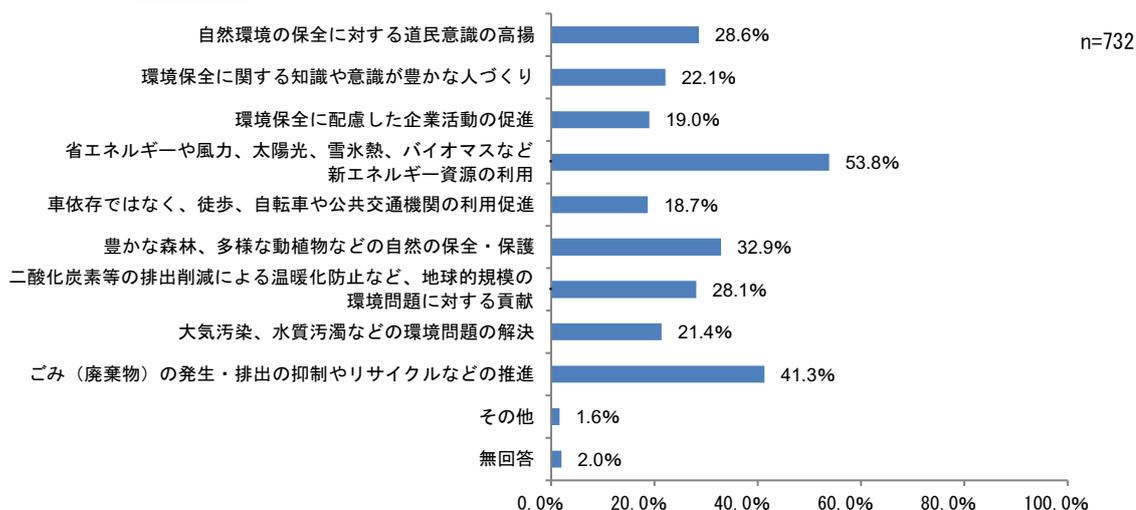
災害、犯罪、交通事故などの心配
がない安全・安心な生活の確保

その他

無回答



問8 人と自然が共生し、環境と調和した地域社会を構築していくにあたって、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」(53.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」(41.3%)、「豊かな森林、多様な動植物などの自然の保全・保護」(32.9%)の順となっている。

【圏域別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、オホーツク連携地域(65.7%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(60.0%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、道南連携地域(43.3%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(42.2%)となっている。

【人口規模別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、人口10万人未満の市(57.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(54.5%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、人口10万人以上の市(44.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(41.9%)となっている。

【性別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、男性54.3%、女性53.6%となっており、「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、男性38.6%、女性43.6%となっている。

【年代別】

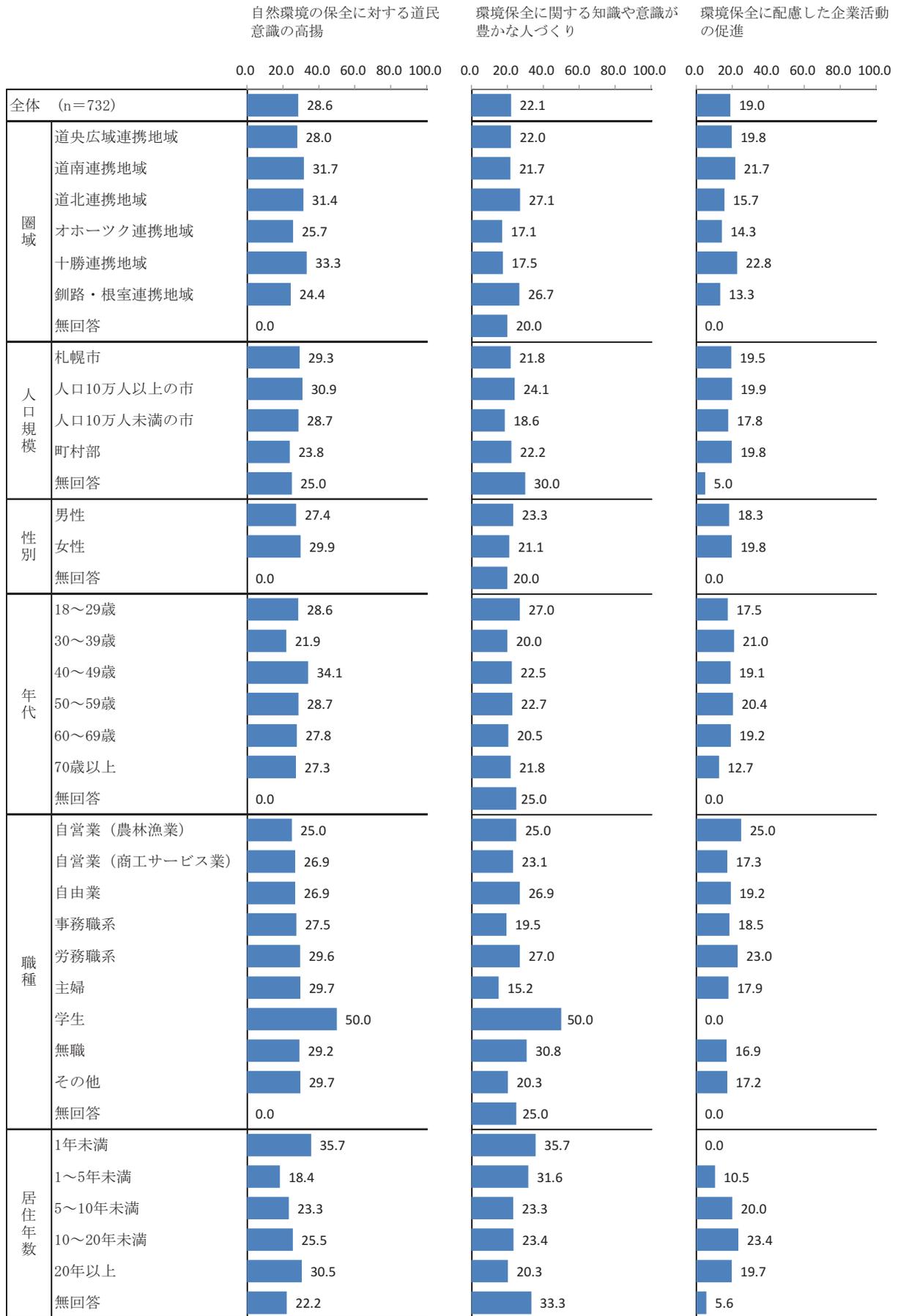
「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、50～59歳(58.0%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(55.5%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、18～29歳(54.0%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(41.1%)となっている。

【職種別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、事務職系(60.0%)が最も割合が高く、次いでその他(56.3%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、その他(46.9%)が最も割合が高く、次いで自営業（農林漁業）(45.0%)となっている。

【居住年数別】

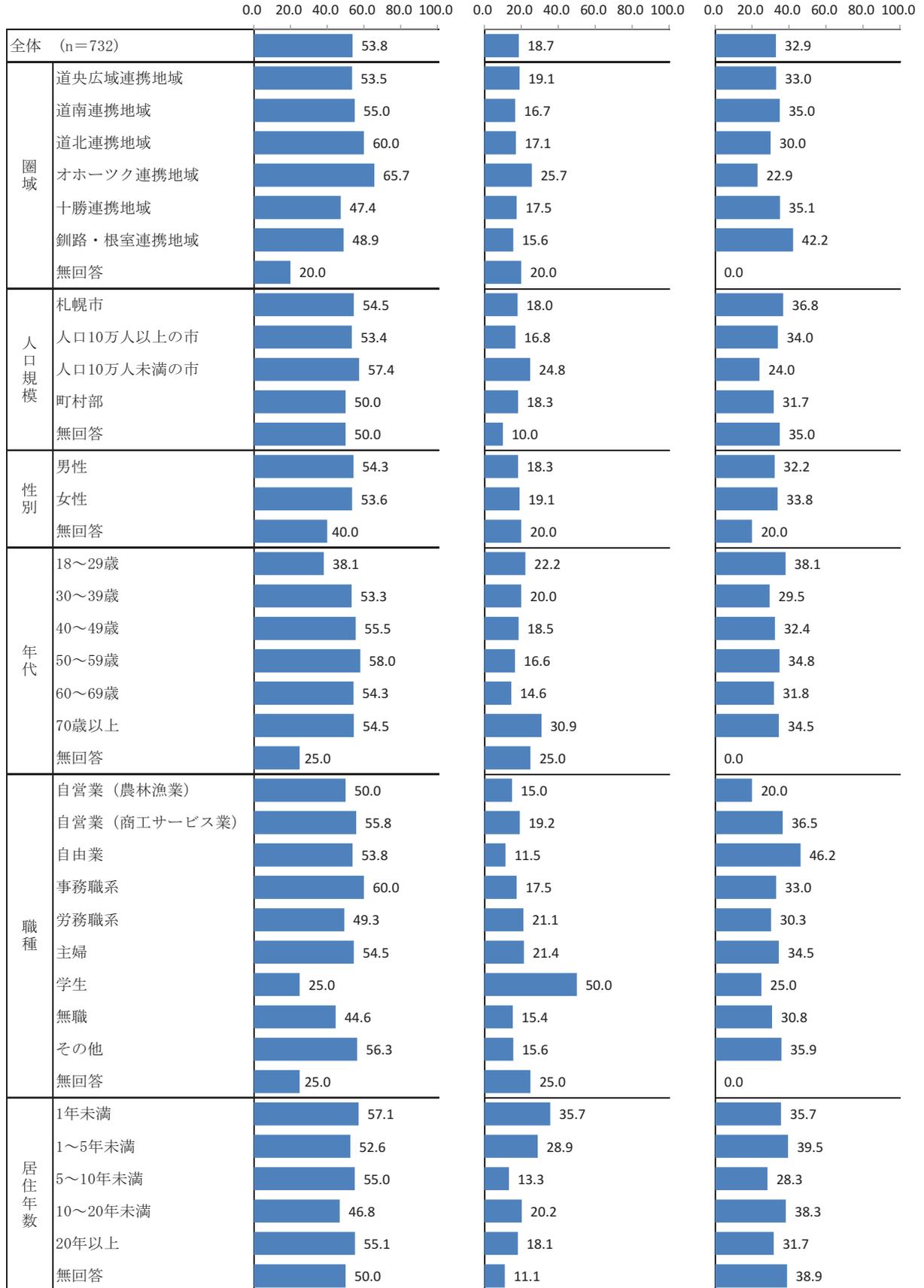
「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、1年未満(57.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(55.1%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、1～5年未満(47.4%)が最も割合が高く、次いで1年未満(42.9%)となっている。



省エネルギーや風力、太陽光、
雪氷熱、バイオマスなど新エネ
ルギー資源の利用

車依存ではなく、徒歩、自転車
や公共交通機関の利用促進

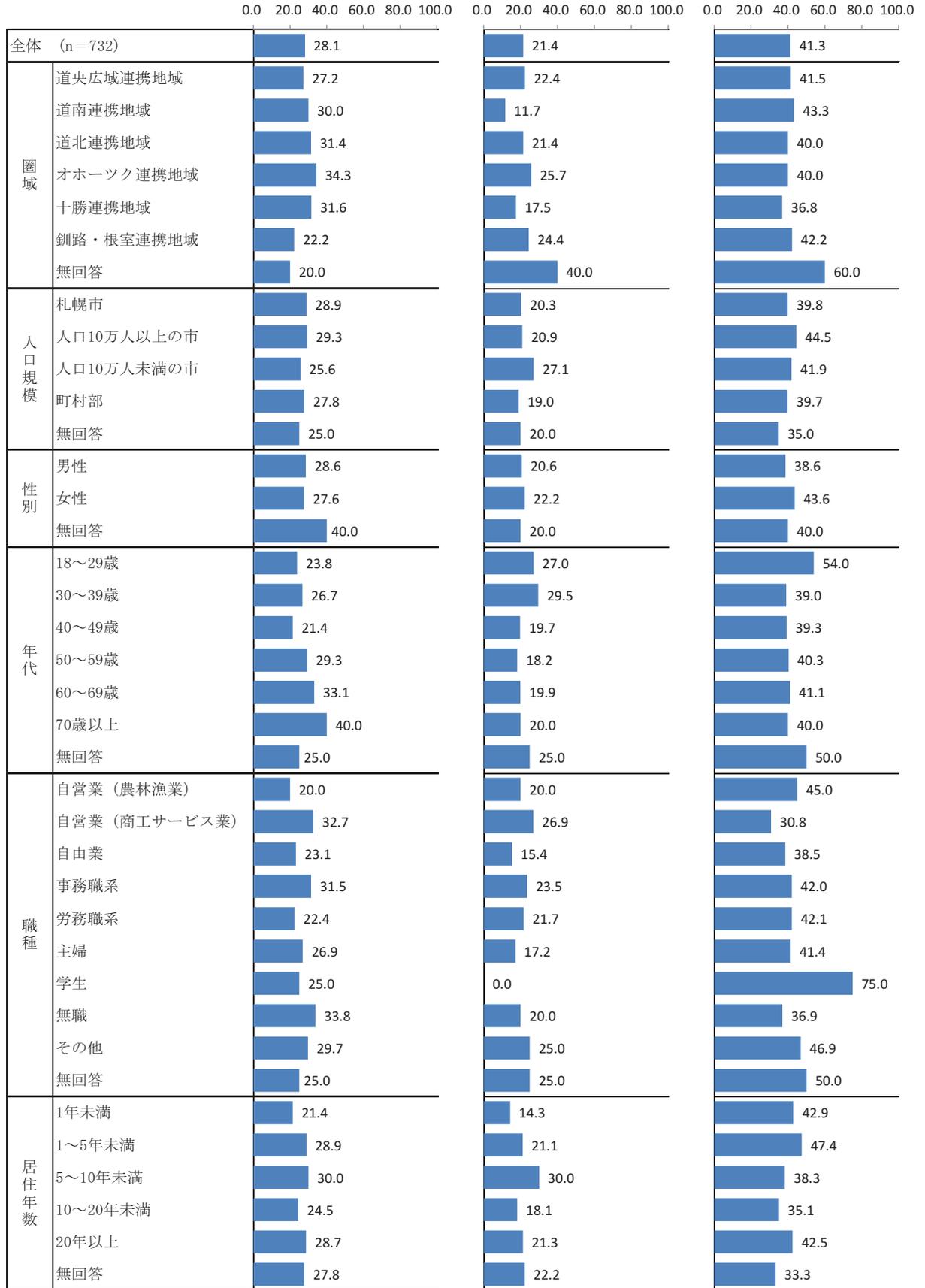
豊かな森林、多様な動植物など
の自然の保全・保護



二酸化炭素等の排出削減による
温暖化防止など、地球的規模の
環境問題に対する貢献

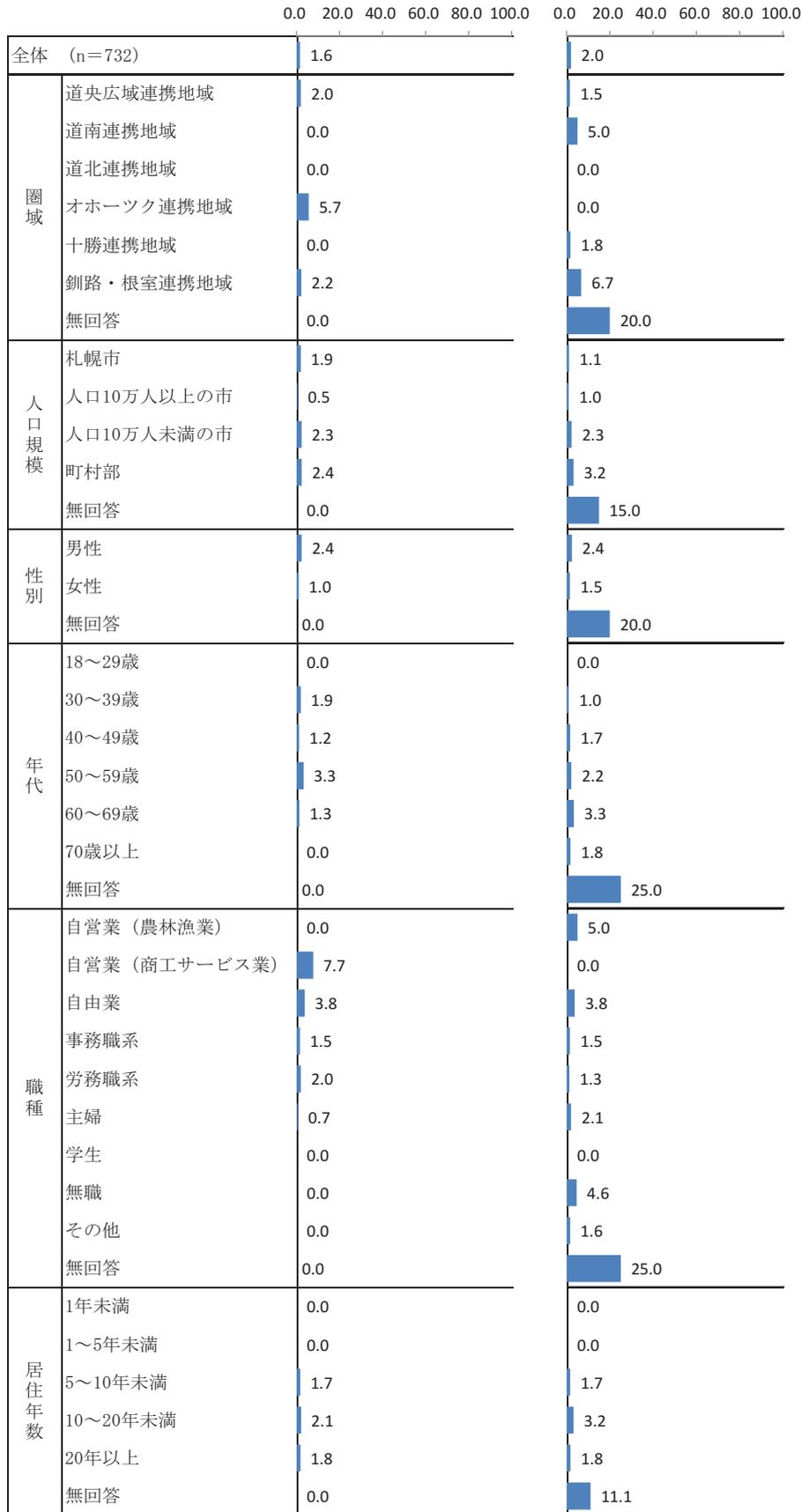
大気汚染、水質汚濁などの環境
問題の解決

ごみ（廃棄物）の発生・排出の
抑制やリサイクルなどの推進

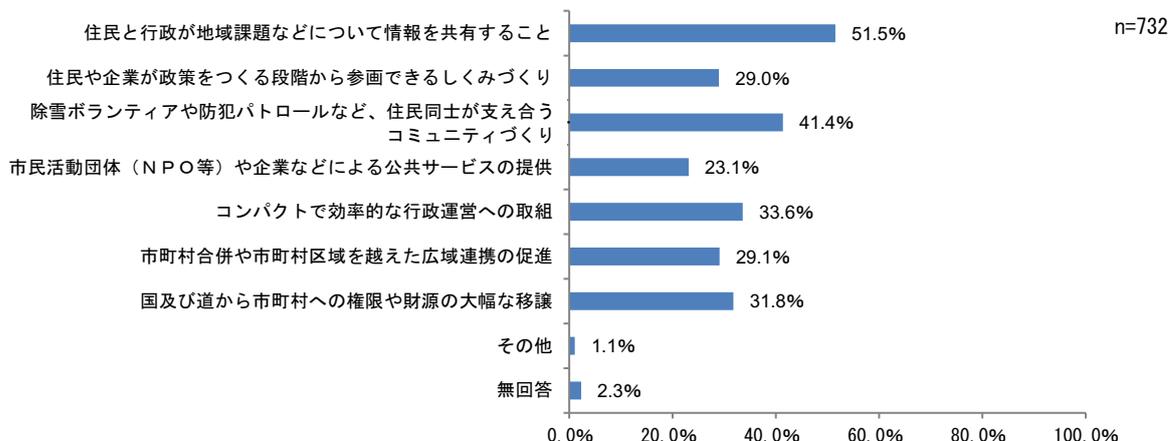


その他

無回答



問9 人口減少・高齢社会が進展する中で、地域社会を持続可能なものとしていくためには、地方自治体もまた、住民サービスを持続的に提供することのできる主体でなければならないと考えられます。そのために、今後、道はどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」（51.5%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」（41.4%）、「コンパクトで効率的な行政運営への取組」（33.6%）の順となっている。

【圏域別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、道北連携地域（58.6%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（55.6%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、釧路・根室連携地域（53.3%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（45.7%）となっている。

【人口規模別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、人口10万人以上の市（53.9%）が最も割合が高く、次いで札幌市（51.9%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、人口10万人未満の市（51.2%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（40.8%）となっている。

【性別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、男性49.6%、女性53.4%となっており、「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、男性34.5%、女性46.9%となっている。

【年代別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、70歳以上（60.0%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（56.3%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、70歳以上（49.1%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（44.4%）と18～29歳（44.4%）が同率となっている。

【職種別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、自由業（57.7%）が最も割合が高く、次いで無職（53.8%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、主婦（49.7%）が最も割合が高く、次いでその他（46.9%）となっている。

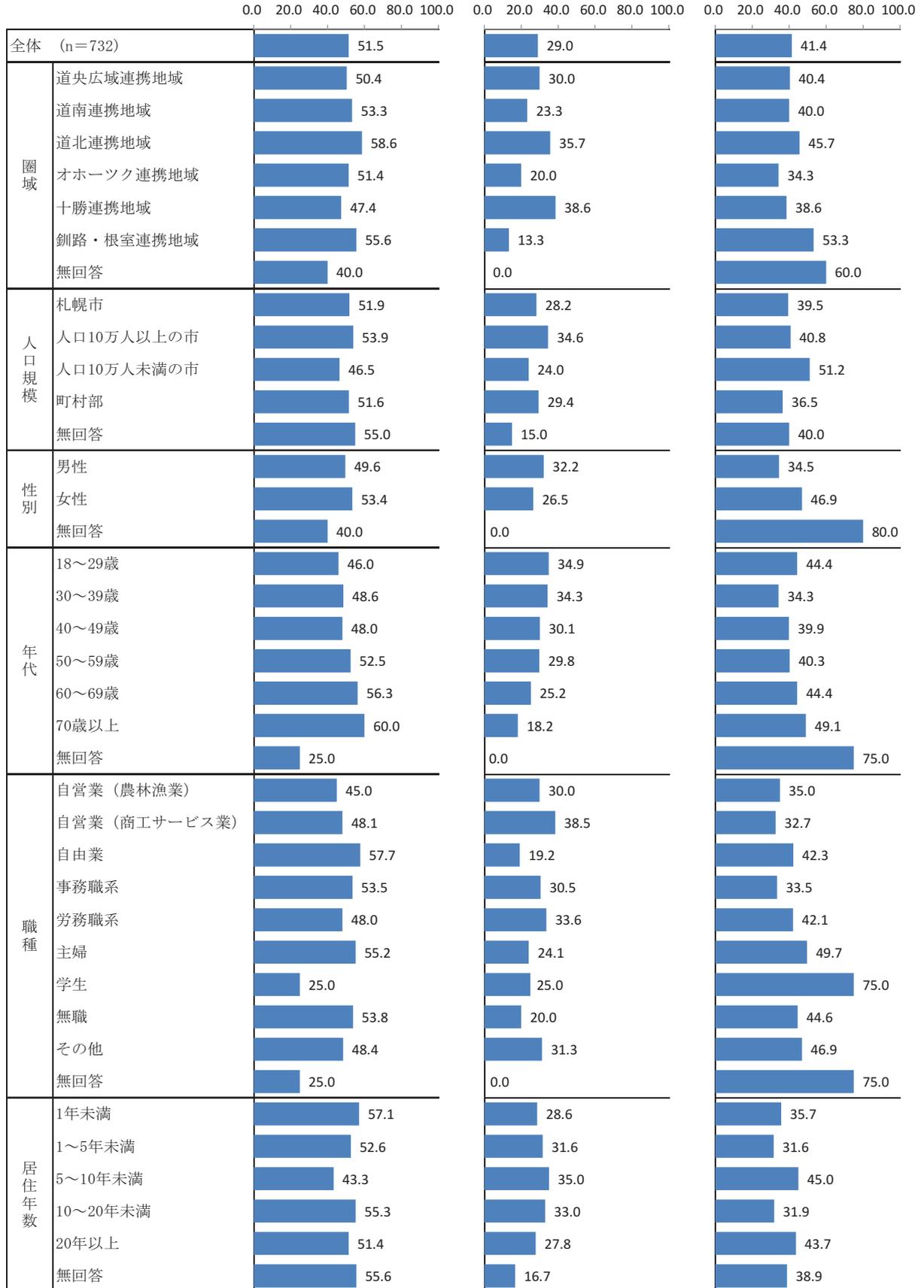
【居住年数別】

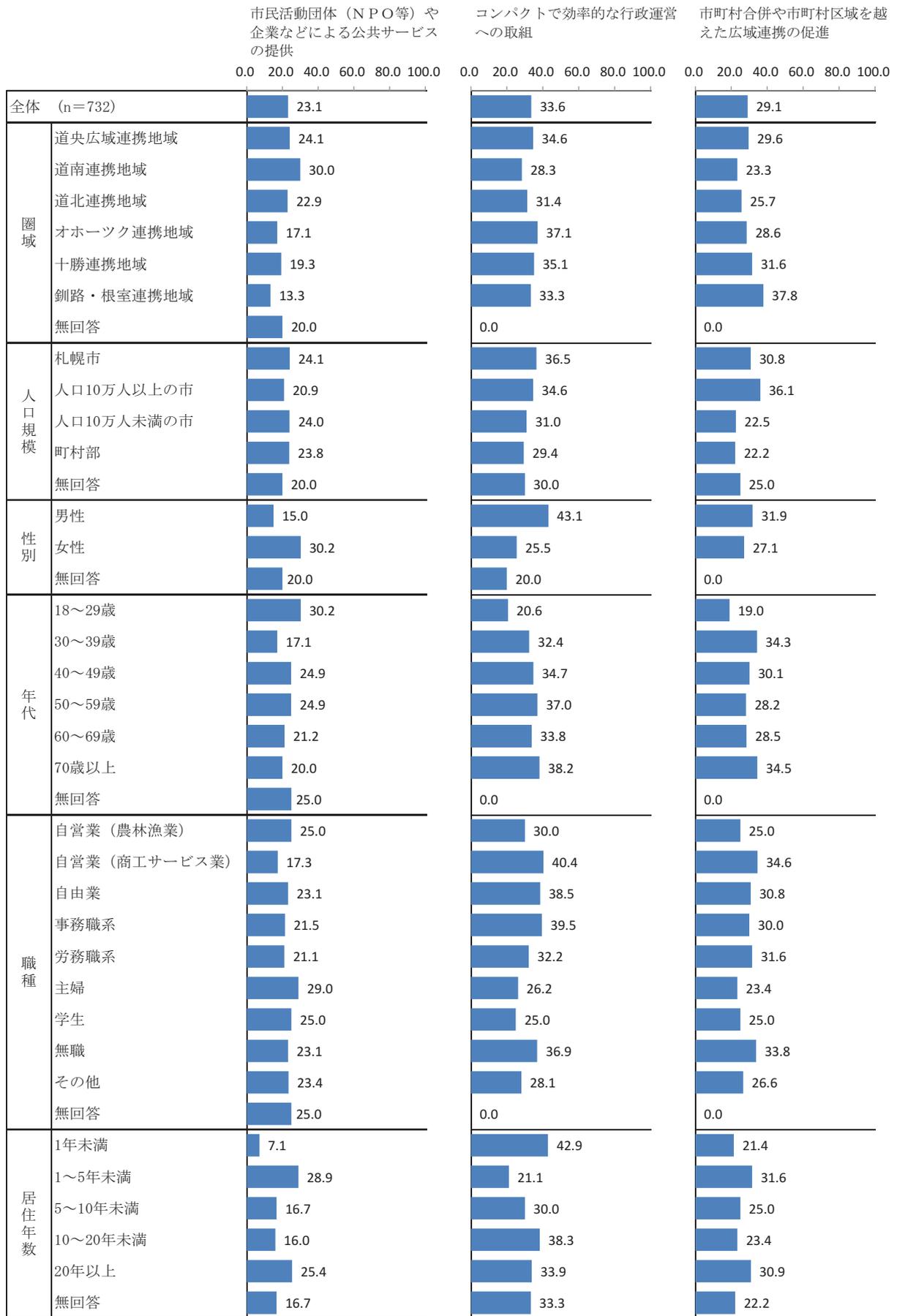
「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、1年未満（57.1%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（55.3%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、5～10年未満（45.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（43.7%）となっている。

住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること

住民や企業が政策をつくる段階から参画できるしくみづくり

除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり

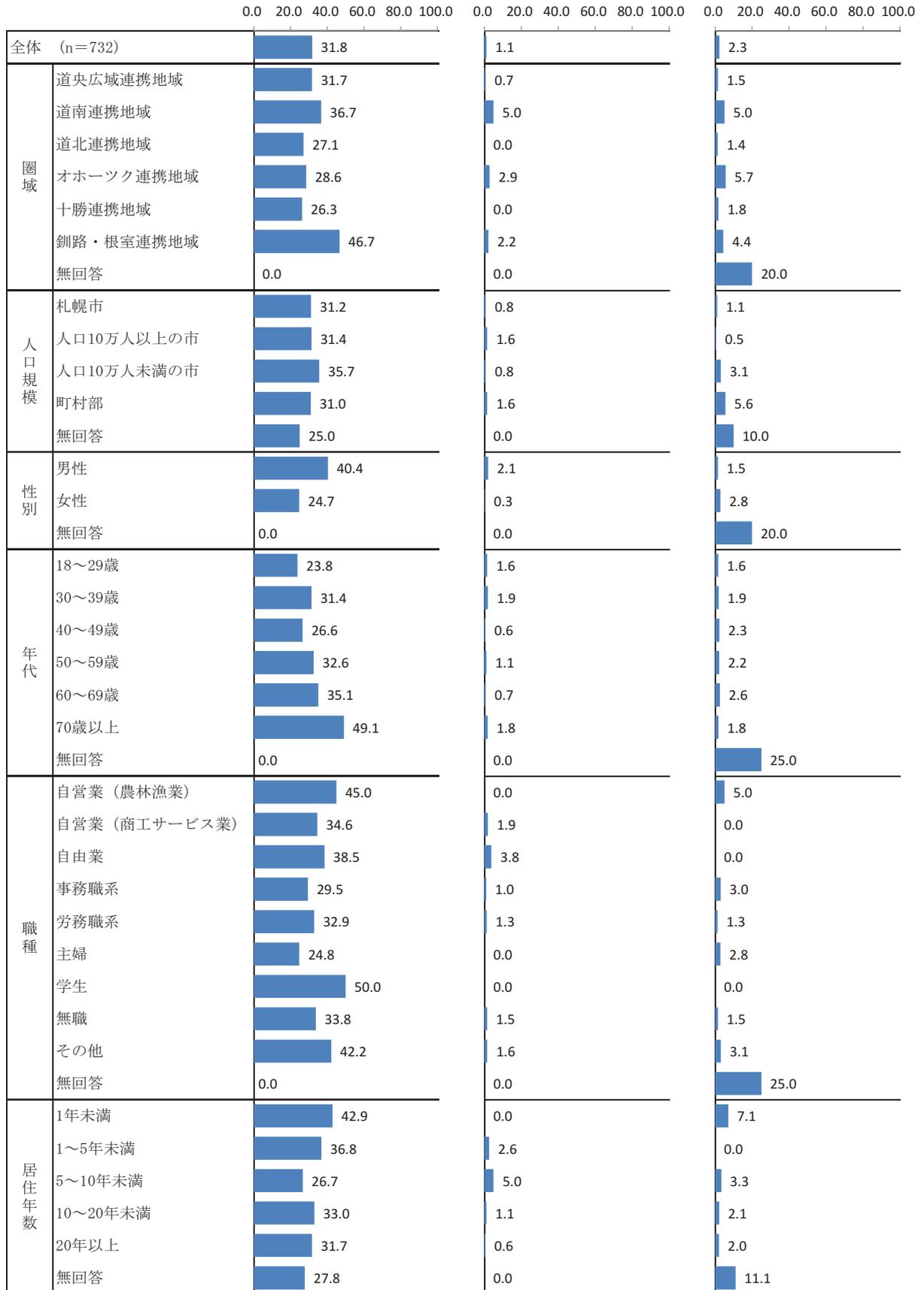




国及び道から市町村への権限や
財源の大幅な移譲

その他

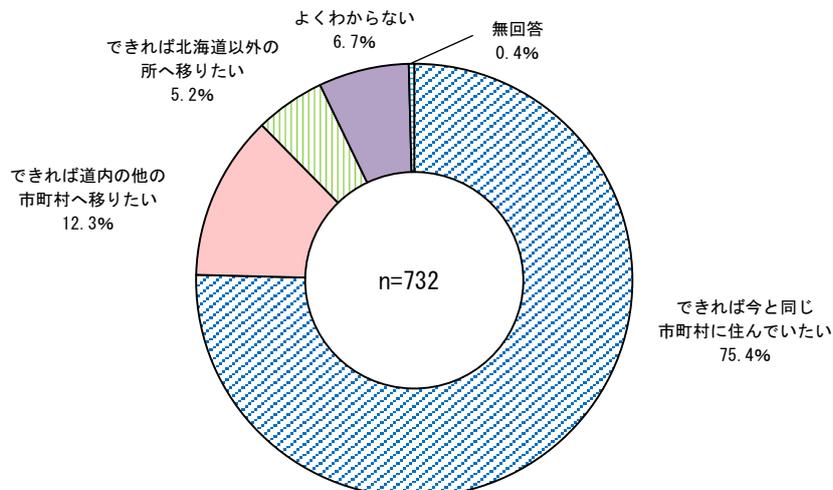
無回答



2 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて

問 10 あなたは、現在住んでいる市町村にこれからも住みたいと思いますか。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」(75.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「できれば道内の他の市町村へ移りたい」(12.3%)、「よくわからない」(6.7%)の順となっている。

【圏域別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、十勝連携地域(84.2%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(78.5%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、オホーツク連携地域(22.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(20.0%)となっている。

【人口規模別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、札幌市(85.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(74.9%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、人口10万人未満の市(23.3%)が最も割合が高く、次いで町村部(20.6%)となっている。

【性別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、男性79.6%、女性71.9%となっており、「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、男性9.1%、女性14.9%となっている。

【年代別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、70歳以上(85.5%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(81.5%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、18～29歳(22.2%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(12.4%)となっている。

【職種別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、自営業(農林漁業)(80.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(78.6%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、自由業(23.1%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(15.0%)となっている。

【居住年数別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、20年以上(78.3%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(70.2%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、1年未満(21.4%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(18.4%)となっている。

①できれば今と同じ市町村に住んでいたい ②できれば道内の他の市町村へ移りたい
 ③できれば北海道以外の所へ移りたい ④よくわからない ⑤無回答

